

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果について

令和4年9月
福岡市教育委員会

目次

1	調査概要	1
(1)	調査の目的	1
(2)	調査の対象とする児童生徒	1
(3)	調査事項及び手法	1
(4)	調査の方式	1
(5)	調査日	1
(6)	集計児童生徒・学校数	2
2	調査結果と考察	3
(1)	調査結果と考察の考え方	3
(2)	教科に関する調査結果の概要	3
(3)	小学校国語の調査結果について	7
(4)	小学校算数の調査結果について	10
(5)	小学校理科の調査結果について	13
(6)	中学校国語の調査結果について	16
(7)	中学校数学の調査結果について	20
(8)	中学校理科の調査結果について	23
3	経年変化からみた学力の状況について	26
(1)	令和3年度調査と令和4年度調査の4段階の学校数の比較	26
(2)	同一児童生徒群（令和元年度小学校6年生、令和4年度中学校3年生）の結果比較	27
4	児童質問紙及び学校質問紙調査の結果について	28
(1)	教科に関する児童質問紙及び学校質問紙調査の結果（肯定的回答率の比較）	28
(2)	同一児童生徒群の児童生徒質問紙調査の結果比較	32
(3)	児童生徒質問紙における学習意欲や学習習慣等の結果と平均正答率の傾向について	33
(4)	授業内容の理解に関する児童生徒質問紙の結果と平均正答率の比較	34
5	問題へ無回答率の傾向について	35
(1)	令和4年度の設問別無回答率の状況	35
(2)	平成29年度から令和4年度における記述式問題での無回答率の状況	36
6	主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組みの状況	38
(1)	主体的・対話的で深い学びに関する質問項目①	38
(2)	主体的・対話的で深い学びに関する質問項目②	39
7	I C Tを活用した学習状況について	40
8	今後の課題	42
9	取組みの方向性	42
(1)	各学校での取組み	42
(2)	教育委員会としての取組み	42

1 調査概要

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

(2) 調査の対象とする児童生徒

○小学校調査

- ・小学校第6学年、特別支援学校小学部第6学年

○中学校調査

- ・中学校第3学年、特別支援学校中学部第3学年

(3) 調査事項及び手法

①児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）

国語、算数・数学、理科について、それぞれ「知識に関する問題」と「活用に関する問題」を一体的に問う問題形式

イ 質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施

②学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組みや学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施

(4) 調査の方式

悉皆調査

(5) 調査日

令和4年4月19日（火）

	小学校調査	中学校調査
1時限目	国語（45分）	国語（50分）
2時限目	算数（45分）	数学（50分）
3時限目	理科（45分）	理科（50分）
3時限目終了後以降	児童質問紙 （20～40分程度）	生徒質問紙 （20～45分程度）

(6) 集計児童生徒・学校数

①集計基準

- ・児童生徒に対する調査について、令和4年4月19日に実施された教科に関する調査及び質問紙調査の結果を集計
- ・後日実施の場合、採点及び調査結果の提供は行われるが、全体集計からは除外
- ・学校に対する質問紙調査については、在籍する児童生徒が調査を実施した学校の結果を集計

②集計児童生徒数（4月19日に調査を実施した児童生徒数）

○小学校調査

- | | |
|--------|----------|
| ・国語 | 12,489 人 |
| ・算数 | 12,494 人 |
| ・理科 | 12,514 人 |
| ・児童質問紙 | 12,540 人 |

○中学校調査

- | | |
|--------|----------|
| ・国語 | 11,312 人 |
| ・数学 | 11,313 人 |
| ・理科 | 11,310 人 |
| ・生徒質問紙 | 11,402 人 |

③集計学校数

○小学校調査

- | | |
|---------|----------------------|
| ・小学校 | 143校（1校は学級閉鎖のため後日実施） |
| ・特別支援学校 | 1校 |

○中学校調査

- | | |
|---------|-------------------|
| ・中学校 | 68校（小呂中学校が対象生徒なし） |
| ・特別支援学校 | 2校 |

2 調査結果と考察

(1) 調査結果と考察の考え方

本調査結果については、福岡市における調査結果を全国及び福岡県と比較して示すとともに、福岡市の過去の調査結果をもとにした経年変化からも学力の状況について考察を行う。

また、教科に関する調査結果をもとに、その要因を児童生徒に対する質問紙調査や学校に対する質問紙調査からも考察を行う。

(2) 教科に関する調査結果の概要

①教科に関する調査結果の概況

(%)

小学校調査		国語	算数	理科
福岡市(市立)	平均正答率	65	64	63
福岡県(公立)	平均正答率	66	63	63
全国(公立)	平均正答率	65.6	63.2	63.3

○国語、算数、理科ともに全国平均と同程度である。

(%)

中学校調査		国語	数学	理科
福岡市(市立)	平均正答率	70	51	50
福岡県(公立)	平均正答率	69	50	49
全国(公立)	平均正答率	69.0	51.4	49.3

○国語は全国平均を上回る。

○数学、理科ともに全国平均と同程度である。

②教科ごとの正答数分布

【小学校】

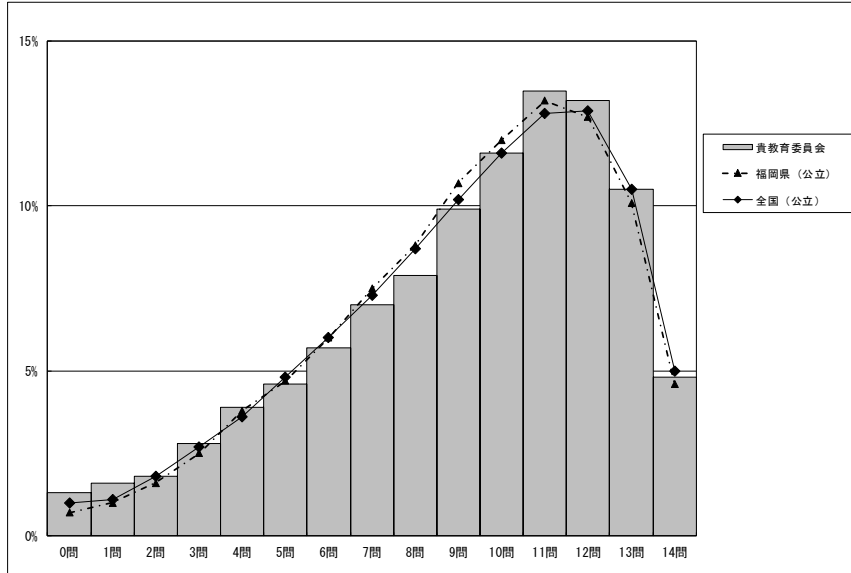
令和4年度全国学力・学習状況調査
調査結果概況【国語】
福岡市教育委員会－児童

小学校調査

・以下の集計値／グラフは、4月19日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
福岡市教育委員会	12,489	9.1 / 14	65	10.0	3.3
福岡県（公立）	42,554	9.2 / 14	66	10.0	3.2
全国（公立）	965,308	9.2 / 14	65.6	10.0	3.3

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



正答数集計値				
正答数	児童数	割合(%)		
		貴教育委員会	福岡県（公立）	全国（公立）
14問	596	4.8	4.6	5.0
13問	1,314	10.5	10.1	10.5
12問	1,645	13.2	12.7	12.9
11問	1,684	13.5	13.2	12.8
10問	1,453	11.6	12.0	11.6
9問	1,242	9.9	10.7	10.2
8問	982	7.9	8.8	8.7
7問	873	7.0	7.5	7.3
6問	711	5.7	6.0	6.0
5問	570	4.6	4.7	4.8
4問	489	3.9	3.8	3.6
3問	346	2.8	2.5	2.7
2問	223	1.8	1.6	1.8
1問	198	1.6	1.0	1.1
0問	163	1.3	0.7	1.0

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	貴教育委員会	福岡県（公立）	全国（公立）
△ 第3四分位	12.0問	12.0問	12.0問
◇ 第2四分位	10.0問	10.0問	10.0問
▽ 第1四分位	7.0問	7.0問	7.0問

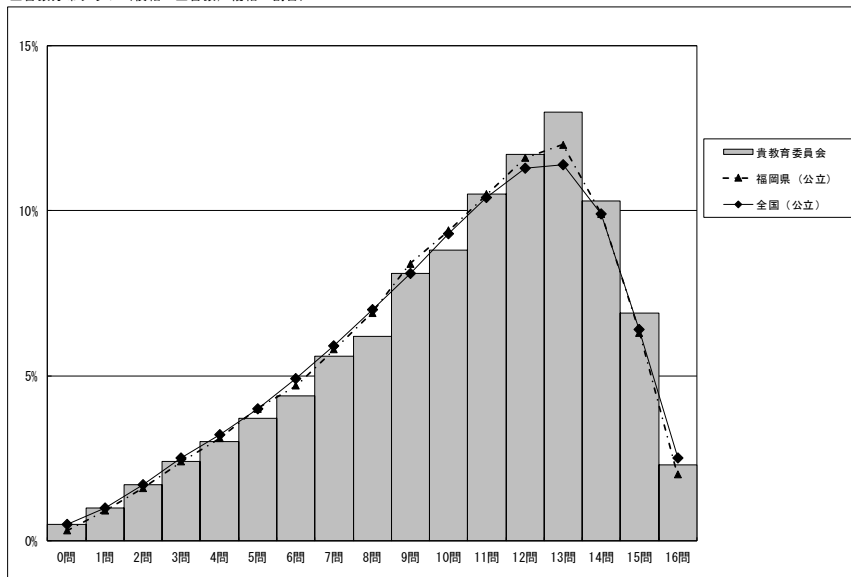
令和4年度全国学力・学習状況調査
調査結果概況【算数】
福岡市教育委員会－児童

小学校調査

・以下の集計値／グラフは、4月19日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
福岡市教育委員会	12,494	10.3 / 16	64	11.0	3.6
福岡県（公立）	42,575	10.1 / 16	63	11.0	3.5
全国（公立）	965,431	10.1 / 16	63.2	11.0	3.6

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



正答数集計値				
正答数	児童数	割合(%)		
		貴教育委員会	福岡県（公立）	全国（公立）
16問	289	2.3	2.0	2.5
15問	856	6.9	6.3	6.4
14問	1,284	10.3	9.9	9.9
13問	1,623	13.0	12.0	11.4
12問	1,458	11.7	11.6	11.3
11問	1,318	10.5	10.5	10.4
10問	1,101	8.8	9.4	9.3
9問	1,007	8.1	8.4	8.1
8問	777	6.2	6.9	7.0
7問	699	5.6	5.8	5.9
6問	551	4.4	4.7	4.9
5問	467	3.7	4.0	4.0
4問	374	3.0	3.1	3.2
3問	298	2.4	2.4	2.5
2問	207	1.7	1.6	1.7
1問	126	1.0	0.9	1.0
0問	59	0.5	0.3	0.5

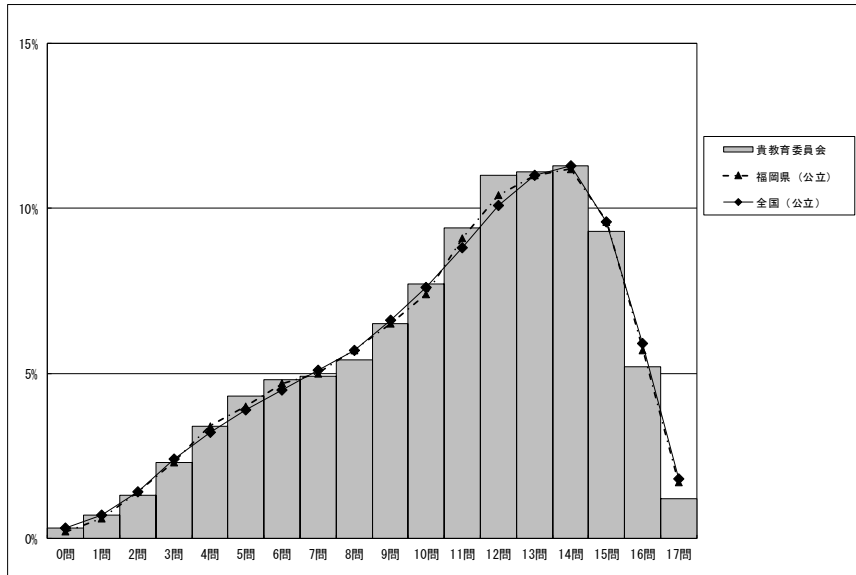
※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	貴教育委員会	福岡県（公立）	全国（公立）
△ 第3四分位	13.0問	13.0問	13.0問
◇ 第2四分位	11.0問	11.0問	11.0問
▽ 第1四分位	8.0問	8.0問	8.0問

・以下の集計値／グラフは、4月19日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
福岡市教育委員会	12,514	10.7 / 17	63	11.0	3.8
福岡県(公立)	42,614	10.7 / 17	63	11.0	3.8
全国(公立)	965,761	10.8 / 17	63.3	11.0	3.8

正答数分布グラフ(横軸:正答数,縦軸:割合)



正答数集計値				
正答数	児童数	割合(%)		
	貴教育委員会	貴教育委員会	福岡県(公立)	全国(公立)
17問	151	1.2	1.7	1.8
16問	646	5.2	5.7	5.9
15問	1,158	9.3	9.6	9.6
14問	1,412	11.3	11.2	11.3
13問	1,388	11.1	11.0	11.0
12問	1,371	11.0	10.4	10.1
11問	1,171	9.4	9.1	8.8
10問	968	7.7	7.4	7.6
9問	808	6.5	6.5	6.6
8問	676	5.4	5.7	5.7
7問	611	4.9	5.0	5.1
6問	600	4.8	4.7	4.5
5問	536	4.3	4.0	3.9
4問	429	3.4	3.4	3.2
3問	293	2.3	2.3	2.4
2問	167	1.3	1.4	1.4
1問	87	0.7	0.6	0.7
0問	42	0.3	0.2	0.3

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

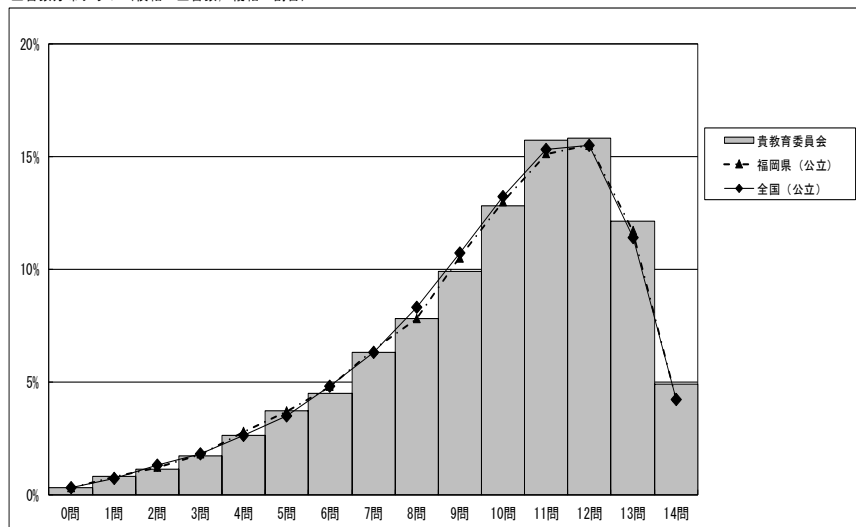
	貴教育委員会	福岡県(公立)	全国(公立)
△ 第3四分位	14.0問	14.0問	14.0問
◇ 第2四分位	11.0問	11.0問	11.0問
▽ 第1四分位	8.0問	8.0問	8.0問

【中学校】

・以下の集計値／グラフは、4月19日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
福岡市教育委員会	11,312	9.8 / 14	70	10.0	2.9
福岡県(公立)	39,373	9.7 / 14	69	10.0	3.0
全国(公立)	891,820	9.7 / 14	69.0	10.0	2.9

正答数分布グラフ(横軸:正答数,縦軸:割合)



正答数集計値				
正答数	生徒数	割合(%)		
	貴教育委員会	貴教育委員会	福岡県(公立)	全国(公立)
14問	554	4.9	4.3	4.2
13問	1,374	12.1	11.7	11.4
12問	1,787	15.8	15.5	15.5
11問	1,773	15.7	15.1	15.3
10問	1,451	12.8	13.0	13.2
9問	1,124	9.9	10.5	10.7
8問	886	7.8	7.8	8.3
7問	714	6.3	6.4	6.3
6問	505	4.5	4.8	4.8
5問	418	3.7	3.7	3.5
4問	290	2.6	2.8	2.6
3問	192	1.7	1.8	1.8
2問	121	1.1	1.2	1.3
1問	88	0.8	0.8	0.7
0問	35	0.3	0.3	0.3

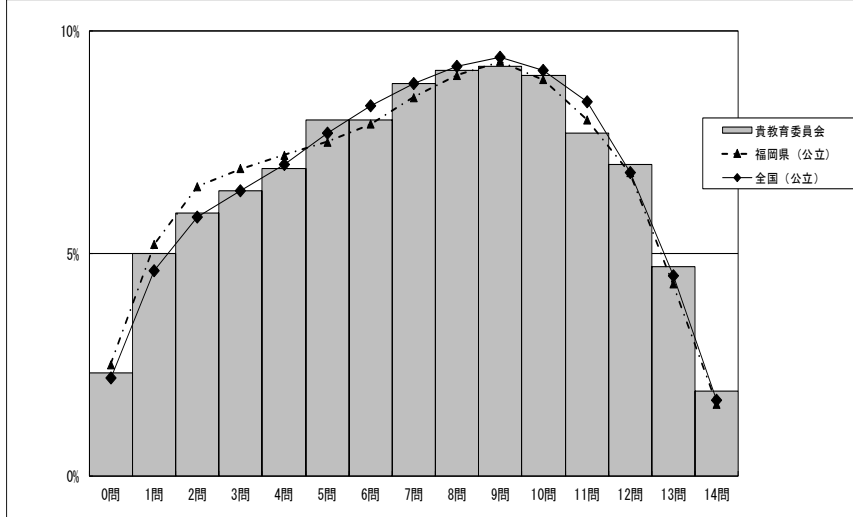
※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	貴教育委員会	福岡県(公立)	全国(公立)
△ 第3四分位	12.0問	12.0問	12.0問
◇ 第2四分位	10.0問	10.0問	10.0問
▽ 第1四分位	8.0問	8.0問	8.0問

・以下の集計値／グラフは、4月19日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
福岡市教育委員会	11,313	7.2 / 14	51	7.0	3.7
福岡県(公立)	39,372	7.0 / 14	50	7.0	3.7
全国(公立)	891,913	7.2 / 14	51.4	7.0	3.6

正答数分布グラフ(横軸:正答数,縦軸:割合)



正答数集計値				
正答数	生徒数	割合(%)		
	貴教育委員会	貴教育委員会	福岡県(公立)	全国(公立)
14問	219	1.9	1.6	1.7
13問	530	4.7	4.3	4.5
12問	793	7.0	6.8	6.8
11問	876	7.7	8.0	8.4
10問	1,021	9.0	8.9	9.1
9問	1,041	9.2	9.3	9.4
8問	1,024	9.1	9.0	9.2
7問	994	8.8	8.5	8.8
6問	904	8.0	7.9	8.3
5問	901	8.0	7.5	7.7
4問	777	6.9	7.2	7.0
3問	727	6.4	6.9	6.4
2問	672	5.9	6.5	5.8
1問	570	5.0	5.2	4.6
0問	264	2.3	2.5	2.2

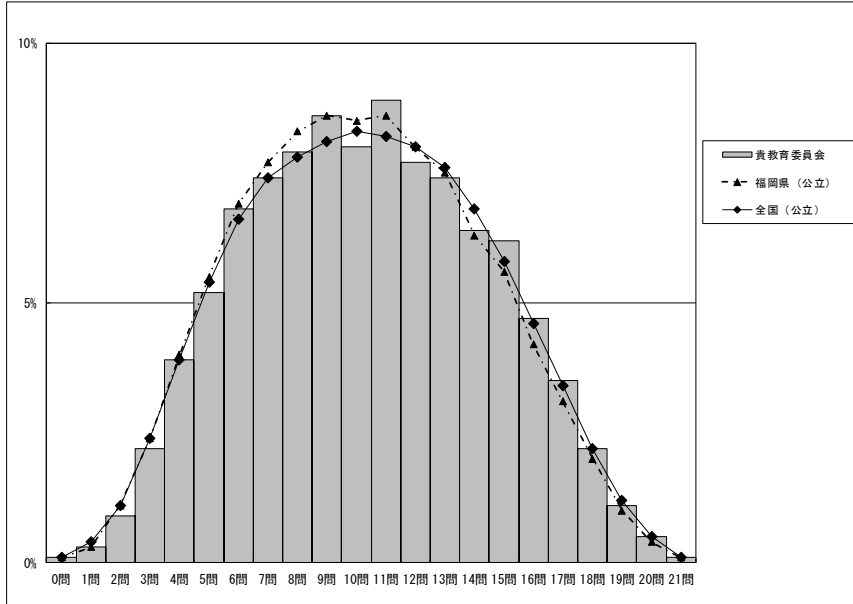
※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	貴教育委員会	福岡県(公立)	全国(公立)
△ 第3四分位	10.0問	10.0問	10.0問
◇ 第2四分位	7.0問	7.0問	7.0問
▽ 第1四分位	4.0問	4.0問	4.0問

・以下の集計値／グラフは、4月19日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
福岡市教育委員会	11,310	10.4 / 21	50	10.0	4.1
福岡県(公立)	39,379	10.2 / 21	49	10.0	4.0
全国(公立)	892,585	10.4 / 21	49.3	10.0	4.1

正答数分布グラフ(横軸:正答数,縦軸:割合)



正答数集計値				
正答数	生徒数	割合(%)		
	貴教育委員会	貴教育委員会	福岡県(公立)	全国(公立)
21問	13	0.1	0.1	0.1
20問	58	0.5	0.4	0.5
19問	129	1.1	1.0	1.2
18問	252	2.2	2.0	2.2
17問	392	3.5	3.1	3.4
16問	530	4.7	4.2	4.6
15問	705	6.2	5.6	5.8
14問	719	6.4	6.3	6.8
13問	834	7.4	7.5	7.6
12問	868	7.7	8.0	8.0
11問	1,006	8.9	8.6	8.2
10問	905	8.0	8.5	8.3
9問	973	8.6	8.6	8.1
8問	896	7.9	8.3	7.8
7問	834	7.4	7.7	7.4
6問	765	6.8	6.9	6.6
5問	584	5.2	5.5	5.4
4問	442	3.9	4.0	3.9
3問	251	2.2	2.4	2.4
2問	107	0.9	1.1	1.1
1問	39	0.3	0.3	0.4
0問	8	0.1	0.1	0.1

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	貴教育委員会	福岡県(公立)	全国(公立)
△ 第3四分位	13.0問	13.0問	13.0問
◇ 第2四分位	10.0問	10.0問	10.0問
▽ 第1四分位	7.0問	7.0問	7.0問

(3) 小学校国語の調査結果について

①内容及び観点ごとの調査結果

全国平均と比較して、					上回っている				下回っている			
分類			区分						平均正答率(%)			
									福岡市	全国（公立）		
			全体						65	65.6		
学習指導 要領の 内容	知識及び技能		(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項				68.6		69.0			
			(2) 情報の扱い方に関する事項									
			(3) 我が国の言語文化に関する事項				74.3		77.9			
	思考力、判断力、 表現力等		A 話すこと・聞くこと				66.7		66.2			
			B 書くこと				46.5		48.5			
			C 読むこと				67.6		66.6			
評価の観点		知識・技能				69.5		70.5				
		思考・判断・表現				62.1		62.0				
		主体的に学習に取り組む態度										

◆学習指導要領の内容では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」「B 書くこと」において、全国を下回った。

◆評価の観点では、「知識・技能」において、全国を下回った。

②平均正答率が高かった問題

(%)

問題番号	問題の概要	福岡市	全国	差
1三	必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える	85.7	84.7	+1.0
1一	話し言葉と書き言葉との違いを理解する	85.2	85.5	-0.3

◆問題番号1三は、「必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることができるかどうかをみる」ことが出題の趣旨であり、2人の話のやりとりを踏まえ、相手が聞きたいことの中心を捉えることができている。

◆問題番号1一は、「話し言葉と書き言葉の違いを理解しているかどうかをみる」ことが出題の趣旨であり、同じ音で異なる意味をもつ言葉と区別し、誤解を招かないようにしていることを捉えることができている。

③課題がみられた問題とその分析

問題番号	問題番号の概要
1四	「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選んで、 でどのように話すかを書く

【正答例】 ごみ拾いがよいと思います。続けることがむずかしい点については、当番を決めてごみを拾ったり、地いきの方にも呼びかけて協力してもらったりするよいと思います。(77字)

正答率 : 福岡市…47.8%
全 国…47.7%
無回答率 : 福岡市… 2.9%
全 国… 3.0%

(正答の条件)
次の条件を満たして解答している。
① 以下の内容を取り上げて書いている。
a 「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選んで書いている
b 選んだアイデアの問題点に対する解決方法を書いている
② 【話し合いの様子の一部】から言葉や文を取り上げて書いている。
③ 50字以上、80字以内で書いている。

(正答以外の解答状況)
ア aと②は満たしているが、bは満たしていない…35.3%
イ aは満たしているが、bと②は満たしていない…3.5%
ウ ②は満たしているが、aは満たしていない…6.2%

- ◆アについては、「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選んで書いており、【話し合いの様子の一部】から言葉や文を取り上げて書いているが、問題点に対する解決方法を書いてない。
- ◆イについては、「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選んで書いており、【話し合いの様子の一部】から言葉や文を取り上げて書いておらず、アと同様に、問題点に対する解決方法を書いてない。
- ◆ウについては、【話し合いの様子の一部】の中の文章から言葉や文を取り上げて書いているが、「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選んで書いていないことから、問題で求められている「どちらかを選んで話す」ことを捉えることができていない。
- ◆約半数の児童が、正答の条件の一部について書くことができていない。aは満たしている児童は38.8%いることから、立場を明らかにして自分の考えを述べることはできているが、bを満たしていないことから、指示された条件が複数ある場合、条件に合わせて書くことや、話し合ったことから自分の考えをまとめることに課題がみられる。

問題番号

問題番号の概要

3二

文章のよさについて友達と伝え合った【伝え合いの様子の一部】を基に、【文章2】のよさを書く

【文章1】

わたしは、五年生の時、美化委員長の南さんが卒業する前に話してくれた。みんなにそうに用具の正しい使い方を教えてほしいという思いをもち、正しく使うことができていく学校の様子をくわしくして、各学級にしようかという活動がすばらしいと思います。

この話を聞き、五年生の時にいえば、委員会が自分が行った活動を振り返り、また、委員会のために新たな活動を提案できなかったことをはなせました。

わたしは今年、運動委員になりました。運動が苦手な人も上手にできるように、ルールや道具をくふうした。おにぎりやボールゲームを各学級にしようかという活動です。

【文章2】

わたしはこの一年間でがんばりたいことは、運動委員としてみんなのことを考えた新たな活動を進めることです。

そう考えたのは、五年生の時、美化委員長の南さんが卒業する前に話してくれた。活動への思いがすばらしいと思ったからです。南さんは、みんなにそうに用具の正しい使い方を教えてほしいという思いをもち、正しく使うことができていく学校の様子をくわしくして、各学級にしようかという活動がすばらしいと思います。

この話を聞き、五年生の時にいえば、委員会が自分が行った活動を振り返り、また、委員会のために新たな活動を提案できなかったことをはなせました。

わたしは今年、運動委員になりました。運動が苦手な人も上手にできるように、ルールや道具をくふうした。おにぎりやボールゲームを各学級にしようかという活動です。

二

鳥谷さんは、川口さんと【文章2】を読み、【文章1】をよく読み、あとの問いに答えよう。

【伝え合いの様子の一部】

鳥谷さん 私のがんばろうとしていることが伝わるかな。

川口さん 伝わってきたよ。それは、上級生が話してくれたことや、委員会が活動したことをもたしているからだね。

鳥谷さん それはよかった。他に気づいたことはあるかな。

川口さん 最後の段落がいね、なぜかというところ、最初の段落の内容をより具体的に書いてあるから、今年ががんばろうとしていることがよく伝わってきたよ。

鳥谷さん ありがとう。自分でも振り返ってみるね。次は、川口さんの文章を読んだ感想を伝えるね。

5（伝え合いが続く）

【問い】 鳥谷さんは、川口さんと伝え合ったことをもとに、自分の文章のよさを振り返り、書くことにしました。あなたが鳥谷さんなら、どのよさを書きますか。次の条件に合わせて書きましょう。

（条件）

○【文章2】のよさを書くこと。

○【文章2】から言葉や文を取り上げて書くこと。

○六十字以上、百字以内にとめて書くこと。

※★の記号は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。

【正答例】わたしの文章のよさは、今年ががんばりたいことを伝えるために、南さんの話や、さいばい委員の活動で反省したことを書いたり、運動委員として進めたい新たな活動を、最後のだん落に具体的に書いたりしたところです。(99字)

正答率 : 福岡市…35.4%
全 国…37.8%
無回答率 : 福岡市…19.6%
全 国…14.5%

（正答の条件）

次の条件を満たして解答している。

①【文章2】のよさについて以下のことを書いている。

a 聞いたことや経験したことをもとにしていること

b 最後の段落にがんばりたいことを具体的に書いていること

c a, b 以外のこと

②【文章2】から言葉や文を取り上げて書いている。

③ 60字以上、100字以内で書いている。

（正答以外の解答状況）

ア ①は満たしているが、②は満たしていない…10.0%

イ ②は満たしているが、①は満たしていない…24.2%

◆アについては、友達（川口さん）が伝えてくれた、自分の文章のよさについて理解し述べるができているが、具体的に文章の中から言葉や文をとりあげることができていない。友達の発言をそのまま述べることにとどまり、友達の発言が実際の文章のどの部分につながるかを考えることに課題がみられる。

◆イについては、自分の文章のよさについて書くことができていない。例えば、「わたしは、運動委員会でみんなのことを考えた新たな活動を進めたいと思っています。」と述べるなど、文章を抜き出すことはできているが、その文章の何がよいのかを述べるができている。

◆無回答 19.6%に対し、34.2%の児童が、正答の条件の一部について書くことができています。一方、ア・イと回答した児童は、よさを伝えてくれた友達の発言を基に自分の文章を振り返ることに課題があるといえる。

学習指導要領の内容「書くこと」について、「文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること」ができるようになることが求められる。授業では、何のために伝え合うのかを明確にすることも大切である。

(4) 小学校算数の調査結果について

①領域及び観点ごとの調査結果

全国平均と比較して、		上回っている	下回っている		
分類	区分			平均正答率(%)	
				福岡市	全国（公立）
全体				64	63.2
学習指導要領の領域	A 数と計算			69.8	69.8
	B 図形			65.2	64.0
	C 測定				
	C 変化と関係			53.0	51.3
	D データの活用			70.6	68.7
評価の観点	知識・技能			69.1	68.2
	思考・判断・表現			57.8	56.7
	主体的に学習に取り組む態度				

◆領域及び評価の観点の全てで、全国平均を上回った。

◆特に、「データの活用」において、全国平均を大きく上回った。

②平均正答率が高かった問題

					(%)
問題番号	問題の概要	福岡市	全国	差	
1 (1)	被乗数に空位のある整数の乗法の計算をすることができる	92.7	92.4	+0.3	
4 (2)	図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について理解している	83.6	83.2	+0.4	

◆問題番号1 (1) は、「被乗数に空位のある整数の乗法の計算をすることができるかどうかをみる」ことが出題の意図であり、 1050×4 の計算について、被乗数の1050を 105×10 と考え、 $105 \times 10 \times 4$ を $105 \times 4 \times 10$ として計算することについて理解できている。

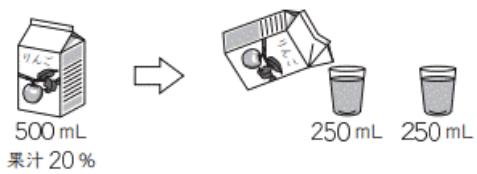
◆問題番号4 (2) は、プログラムで長方形をかく場面の問題であり、「図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について理解しているかどうかをみる」ことが出題の意図である。長方形の作図について、二組の向かい合う辺の長さがそれぞれ等しいことを理解して、作図の仕方を筋道を立てて考えることができている。

③課題がみられた問題とその分析

問題番号	問題番号の概要
1 (4)	85 × 21 の答えが 1470 より必ず大きくなることを判断するための数の処理の仕方を選ぶ 1 個入り 85 円のカップケーキ 21 個分の値段は、85 × 21 で求めることができます。  85 × 21 の答えが 1470 より必ず大きくなることは、85 × 21 をそのまま計算せずに、85 と 21 をがい数にして計算してもわかります。 85 × 21 の答えが、1470 より必ず大きくなるのがわかるためには、「85」と「21」をどのようにがい数にして計算するとよいですか。 下の ア から エ までのの中から 1 つ選んで、その記号を書きましょう。 ア 85 を小さくみて 80、21 を小さくみて 20 として計算します。 イ 85 を小さくみて 80、21 を大きくみて 30 として計算します。 ウ 85 を大きくみて 90、21 を小さくみて 20 として計算します。 エ 85 を大きくみて 90、21 を大きくみて 30 として計算します。 正答率： 福岡市…35.2% 全 国…34.8% 無回答率： 福岡市… 1.1% 全 国… 0.9% 【正答】ア 85 を小さくみて 80、21 を小さく見て 20 として計算する (正答以外の解答状況) イ 85 を小さくみて 80、21 を大きくみて 30 として計算する…4.2% ウ 85 を大きくみて 90、21 を小さくみて 20 として計算する…51.7% エ 85 を大きくみて 90、21 を大きくみて 30 として計算する…7.2% ◆ウについては、51.7%と高くなっており、四捨五入をして十の位までの概数にする とよいと考え解答している。85×21 が 1470 より必ず高くなることを見積もりによ って確かめるために、85 と 21 をそれぞれ一の位の数を持ち捨てて十の位までの概 数にし、計算するとよいことが理解できていない。 ◆イ、エについても上記と同様のことについて理解することができておらず、四捨五 入についての理解も十分でない。 ◆概数に関わる数学的活動を通して、<u>日常の事象における場面に着目し、目的に合っ た数の処理の仕方</u>を考えるとともに、それを日常に生かすことができるようにする ことが求められる。

問題番号	問題番号の概要
2 (3)	果汁が含まれている飲み物の量を半分にしたときの、果汁の割合について正しいものを選ぶ

(3) リんごの果汁が 20 %ふくまれている飲み物が 500 mL あります。
この飲み物を 2 人で等しく分けると、1 人分は 250 mL になります。



500 mL
果汁 20 %

250 mL 250 mL

正答率：福岡市…21.9%
全 国…21.4%
無回答率：福岡市… 1.4%
全 国… 1.1%

250 mL の飲み物にふくまれている果汁の割合について、次のようにまとめます。

250 mL は、500 mL の $\frac{1}{2}$ の量です。

このとき、

上の ア) にあてはまる文を、下の 1 から 3 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。

1 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になると、果汁の割合も $\frac{1}{2}$ になります。

2 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になると、果汁の割合は 2 倍になります。

3 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になっても、果汁の割合は変わりません。

【正答】 3

飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になっても、
果汁の割合は変わりません。

(正答以外の解答状況)
ア 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になると、果汁の割合も $\frac{1}{2}$ になると解答…68.1%
イ 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になると、果汁の割合は 2 倍になると解答…8.0%

◆アについては、果汁が 20%含まれている飲み物を二人で等しく分けたとき、飲み物の量は $\frac{1}{2}$ になるが、同様に果汁の割合も $\frac{1}{2}$ になると誤って捉えている。数量が変わっても割合は変わらないことの理解が十分ではない。

◆イについては、同様に 2 倍になると誤ってとらえていえる。

◆二つの数量の関係に関わる数学的活動を通して、ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係を比べる場合に割合を用いる場合があることを理解できるようにすることが求められる。

◆二つの数量の関係に関わって、日常の具体的な場面に対応させながら、理解できるようにすることが大切である。

(5) 小学校理科の調査結果について

①領域及び観点ごとの調査結果

全国平均と比較して、		上回っている		下回っている		
分類		区分			平均正答率(%)	
					福岡市	全国（公立）
全体					63	63.3
学習指導要領の 区分・領域	A区分	「エネルギー」を柱とする領域		50.5	51.6	
		「粒子」を柱とする領域		60.1	60.4	
	B区分	「生命」を柱とする領域		74.8	75.0	
		「地球」を柱とする領域		64.0	64.6	
評価の観点		知識・技能		61.5	62.5	
		思考・判断・表現		63.3	63.7	
		主体的に学習に取り組む態度				

◆区分・領域及び評価の観点の全てにおいて、全国平均を下回った。

②平均正答率が高かった問題

(%)

問題番号	問題の概要	福岡市	全国	差
1 (1)	問題を解決するために必要な観察の視点を基に、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができる	93.4	92.9	+0.5
4 (1)	観察で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる	82.4	82.3	+0.1

◆問題番号1(1)は、「問題を解決するために必要な観察の視点を基に、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができるかどうかをみる」ことが出題の趣旨であり、提示された観察の記録に示されている内容から、問題に対して観察の視点を持ち、どのような観察の記録になるのか見通すといった、問題を解決するまでの道筋を構想することはできている。

◆問題番号4(1)は、「観察で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができるかどうかをみる」ことが出題の趣旨であり、冬の天気と気温の変化の記録を示したグラフを正しく読み取り、その結果を、問題の視点で分析し、解釈して、自分の考えをもつことについてはできている。

③課題がみられた問題とその分析

問題番号	問題番号の概要
3 (1)	光の性質を基に、鏡を操作して、指定した的に反射させた日光を当てることができる人を選ぶ
3	たかしさんたちは、晴れた日に科学クラブで、同じ大きさの鏡を使い、日光をはね返して、<u>的</u>をあてゲームをしました。 上の図のように、3人とかべの間に、それぞれ、<u>円形、三角形、四角形に切りぬいた、鏡と同じ大きさの段ボールの板</u>を置きました。 (1) 3人が上の図の位置で鏡の向きを変え、それぞれが日光をはね返して、3つの段ボールの板にあてたときに、かべの左にある<u>的</u>に、<u>三角形の光</u>をあてることができるのはだれですか。下の 1 から 4 までの中から 1つ選んで、その番号を書きましょう。 1 たかしさん 2 はなこさん 3 かつやさん 4 全員 正答率：福岡市…26.7% 全 国…27.8% 無回答率：福岡市… 0.8% 全 国… 0.6% 【正答】 3 かつやさん (正答以外の解答状況) ア たかしさんと解答…12.9% イ はなこさんと解答…49.1% ウ 全員と解答…10.5% ◆ア、イ、ウについては、<u>的</u>の正面にいるたかしさんを示す選択肢や、三角形に切り抜いた段ボールの板の正面にいるはなこさんを示す選択肢を選んでいる。どちらも反射した日光が屈折しなければ、反射した日光で<u>的</u>に三角形の光をあてることができない。このことから、<u>日光は直進することについての理解に課題</u>があるといえる。 ◆本設問は、鏡を操作して反射させた日光を対象として、光の性質を基に、反射させた日光の進み方について問うものである。本設問にあるように、生きて働く知識を習得するためには、<u>主体的な問題解決を通して、知識を概念的に理解することが大切である</u>。そのため、習得した知識を、次の学習や生活に生かすことができるようにすることの重要性について意識して授業を改善することが大切である。

問題番号		問題番号の概要																														
3	(4)	問題に対するまとめから、その根拠を実験の結果を基にして書く																														
次に、たかしさんたちは、日光をはね返して調理する動画を見て、先生とやってみることにしました。		実験の【結果】は、下の表のようになりました。																														
たかしさん 調理に使うなべは、黒色がいちと書いてあるよ。黒色があたまりやすいのかな。		【結果】 <table><tr><th colspan="4">かんの色による水の温度の変化</th></tr><tr><th>かんの色</th><th>時間</th><th>0分</th><th>20分後</th><th>40分後</th></tr><tr><td>黒</td><td></td><td>24℃</td><td>28℃</td><td>32℃</td></tr><tr><td>赤</td><td></td><td>24℃</td><td>27℃</td><td>29℃</td></tr><tr><td>青</td><td></td><td>24℃</td><td>27℃</td><td>30℃</td></tr><tr><td>白</td><td></td><td>24℃</td><td>25℃</td><td>26℃</td></tr></table>		かんの色による水の温度の変化				かんの色	時間	0分	20分後	40分後	黒		24℃	28℃	32℃	赤		24℃	27℃	29℃	青		24℃	27℃	30℃	白		24℃	25℃	26℃
かんの色による水の温度の変化																																
かんの色	時間	0分	20分後	40分後																												
黒		24℃	28℃	32℃																												
赤		24℃	27℃	29℃																												
青		24℃	27℃	30℃																												
白		24℃	25℃	26℃																												
はなこさん ほかの色も試してみたいね。赤色はどうなのかな。		【問題】に対するまとめは、「はね返した日光を水の入ったかんにあてると、黒色のかんの水の温度が最も高くなる。」といえる。																														
かつやさん 色をつけた空きかんに水を入れて、温度をはかろう。 【問題】が見つかったね。		(4) はなこさんが、下線部のようにまとめたわけを上の【結果】を使って書きましょう。																														
【問題】 はね返した日光を水の入ったかんにあてると、何色のかんの水の温度が最も高くなるのか。		【正答例】黒色のかんの水の温度は、40分後、ほかの色のかんの水の温度より高かったから。																														
たかしさんたちは、次のような実験をしました。		正答率：福岡市…31.8% 全 国…35.1% 無回答率：福岡市…12.6% 全 国…11.2%																														
【方法】 固定した温度計 空きかん ①同じ種類、同じ大きさの空きかんに色をぬる。(黒色、赤色、青色、白色) ②それぞれの空きかんに、同じ量の水を入れ、温度計をとりつける。 ③はね返した日光をかんにあて、0分、20分後、40分後のかんの中の水の温度をはかる。																																
(正答の条件) 次の①②③④の全てを記述している。 ①「黒色のかん」「黒以外のかん」など、結果のうち、黒色の缶、またはそれ以外の色の缶について言及する趣旨で解答しているもの ②「40分後には」「最後には」など結果のうち、時間について言及する趣旨で解答しているもの ③「28℃」「32℃」など、結果のうち、缶の中の水の温度について言及する趣旨で解答しているもの ④「ほかの色のかんの水の温度よりも高い」「一番水の温度が高い」など、缶の中の水の温度を比較することを示す趣旨で解答しているもの																																
(正答以外の解答状況) ア ①、④を記述しているもの…19.9% イ 結果を用いず原因を示す内容で記述しているもの…20.5% ウ ④の記述がないもの…1.0% エ ①の記述がないもの…3.7%																																
◆アについては、例えば「黒色のかんの水の温度は、ほかの色のかんの水の温度より高いから」など、温度を測定した時点と缶の水の温度についての記述がないことから、結果のうち、必要な事実を記述することに課題があると考えられる。 ◆イについては、「黒は光を吸収し、熱をもつから」など、結果を用いず、原因を示す内容で記述している。このことから、実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述することに課題があると考えられる。 ◆ウ、エについても、実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述することに課題があると考えられる。 ◆実験で得た結果を分析して、解釈し、問題に対するまとめの根拠を示すため、結果のうち、事実と、事実からいえることについて記述することができるようになることが求められる。(正答率の高い問題4 (1) から、実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことについてはできている)																																

(6) 中学校国語の調査結果について

①領域及び観点ごとの調査結果

全国平均と比較して、 上回っている 下回っている

分類		区分	平均正答率(%)	
			福岡市	全国（公立）
全体			70	69.0
学習指導 要領の 内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	73.2	72.2
		(2) 情報の扱い方に関する事項	48.7	46.5
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	70.0	70.2
	思考力、判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	64.7	63.9
		B 書くこと	48.7	46.5
		C 読むこと	68.6	67.9
評価の観点	知識・技能	69.8	69.0	
	思考・判断・表現	63.3	62.3	
	主体的に学習に取り組む態度			

◆学習指導要領の内容では、「我が国の言語文化に関する事項」において、全国を下回ったが、その他の内容では、上回った。

◆評価の観点の全てで、全国を上回った。

②平均正答率が高かった問題

(%)

問題番号	問題の概要	福岡市	全国	差
2二	漢字を書く（のぞく）	86.8	82.1	+4.7
4二	最初に書いた文字の漢字のバランスについて説明したものとして適切なものを選択する	90.0	90.1	-0.1

◆問題番号2二は、「漢字を書く」ことが出題の趣旨であり、第1学年までに学習した常用漢字を書き、文章の中で使うことはできている。「除」は、小学校第6学年の配当漢字である。

◆問題番号4二は、「最初に書いた文字の漢字のバランスについて説明したものとして適切なものを選択する」ことが出題の趣旨であり、漢字の行書の読みやすい書き方について、楷書の場合と同様に、文字の配列に配慮する必要があることを理解している。

③課題がみられた問題とその分析

問題番号	問題番号の概要
2三	農林水産省のウェブページにある資料の一部から必要な情報を引用し、意見文の下書きにスマート農家の効果を書き加える
2	小林さんは、国語の時間に、「先端技術との関わり方」というテーマで意見文を書いています。次は、文書作成ソフトを使って小林さんが書いた【意見文の下書き】と友達が書いた【コメントの一部】、小林さんがコメントを受けて集めた【農林水産省のウェブページにある資料の一部】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。 【意見文の下書き】 私たちの生活は、先端技術により、わずかな期間で大きく様変わりしてきている。便利なが増えてよいと感じるが、目的に応じて選択して活用することが大切だと思う。 そう考えるようになったのは、農業を営み、広大な農地を二人で管理している祖父母に、スマート農業についての話を聞いたからだ。<u>祖父母は、今年に入ってからロボットトラクタを導入し、作業の一部を自動化した。</u>そのおかげで、農地を耕したり種をまいたりすることに加え、草を取りの^①ぞく作業も効率よく進むようになったという。負担が軽減したことをよろこんでいる祖父母に、他に取り入れているものはないかを聞いてみた。すると、「スマート農業に関連する様々な先端技術はあるが、これまでの経験を生かして対応できるので、他には取り入れていない。」とのことだった。<u>スマート農業には、作業を自動化すること以外の効果もあるようだ。</u>しかし、祖父母は、自分たちに必要なものを選択して活用していた。 これは、私たちが意識しなければならないことだと思った。今後、身の回りには様々な先端技術がさらに普及していくだろう。私も祖父母のように、目的に応じて選択しながら先端技術を活用していきたい。 【コメントの一部】 上野 他にどのような効果があるのかを具体的に書いた方がよいのではないだろうか。 中村 私も同感です。スマート農業の効果を書き加えることで、小林さんが、自分の考えの根拠として示しているこの段落の内容が分かりやすくなると思います。 【農林水産省のウェブページにある資料の一部】 スマート農業について 「農業」×「先端技術」＝「スマート農業」 「スマート農業」とは、「ロボット、AI、IoT^(注1)など先端技術を活用する農業」のこと。 ➡「生産現場の課題を先端技術で解決する！農業分野における^(注2)Society5.0^(注3)の実現」 ※Society5.0：政府が提唱する、テクノロジーが進化した未来社会の姿 スマート農業の効果 ① 作業の自動化 ロボットトラクタ、スマホで操作する水田の水管理システムなどの活用により、作業を自動化し人手を省くことが可能に ② 情報共有の簡易化 位置情報と連動した経営管理アプリの活用により、作業の記録をデジタル化・自動化し、熟練者でなくても生産活動の主体になることが可能に ③ データの活用 ^(注3)ドローン・衛星によるセンシングデータや気象データのAI解析により、農作物の生育や病虫害を予測し、高度な農業経営が可能に (農林水産省ウェブページによる。) (注1) AI＝人工知能。 (注2) IoT（アイオーティー）＝自動車や電化製品などの様々なものがインターネットに接続されているシステム。 (注3) センシングデータ＝センサーを利用して計測・判別し、収集した情報。

正答率： 福岡市…48.7%
全 国…46.5%
無回答率：福岡市… 9.7%
全 国… 9.0%

【正答例】

(例えば) 農林水産省のウェブページにある資料には、作業の自動化以外に「情報共有の簡易化」と「データの活用」が示されている。

(正答の条件)

次の条件を満たして解答している。

- ①【農林水産省のウェブページにある資料の一部】から適切な情報を抜き出して書いている。
- ② 引用する部分をかぎっこ「」でくくって書いている。
- ③ 「例えば」に適切に続くように書いている。

三 小林さんは、上野さんと中村さんからの【コメントの一部】を踏まえて、 で囲まれ

た「スマート農業には、作業を自動化すること以外の効果もあるようだ。」のすぐあとに、スマート農業の効果を書き加えることにしました。あなたならどのように書きますか。次の

条件1と条件2にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 【農林水産省のウェブページにある資料の一部】から必要な情報を引用して書く

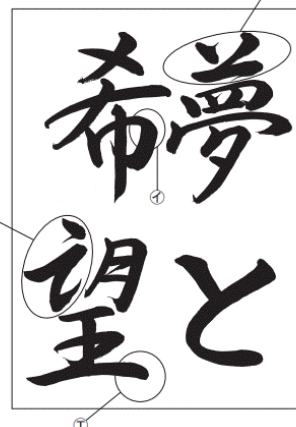
こと。引用する部分は、かぎっこ「」でくくって書くこと。

条件2 「例えば、」に続けて書くこと。

(正答以外の解答状況)

- ア 条件①、②を満たし、条件③を満たさないで解答しているもの…0.1%
イ 条件①、③を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの…37.3%
ウ 条件②、③を満たし、条件①を満たさないで解答しているもの…0.9%

- ◆アについては、『(例えば)「スマート農業について」「情報共有の簡易化」「データの活用」と記述するなど、「例えば」に適切に続くように書くことができていない。文と文のつながりを考えて、適切に書くことに課題があるといえる。
- ◆イについては、引用する部分を明らかにすることに課題がある。37.3%の生徒ができていない。
- ◆ウについては、自分の考えが伝わる文章になるように、適切な情報を抜き出して書くことに課題がある。ここでは、「作業を自動化すること」以外の効果を抜き出す必要がある。
- ◆学習指導要領「情報の扱い方に関する事項」には、「引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使うこと」とある。「書くこと」の学習においては、実際に文章を書く活動を多くすることが必要であり、その際「知識・技能」に示された各指導事項との関連を図ることも重要である。

問題番号	問題番号の概要
4ー	行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する
4 ①の部分は、点画を連続して書くことができる。 3 ②の部分は、点画を省略して書くことができる。 2 ③の部分は、楷書と同様に点画を直線的に書くことができる。 1 ④の部分は、筆順の変化に気を付けて書くことができる。	
一 「最初に書いた文字」について、青山さんは「行書の特徴を踏まえて書くことができる」と述べていますが、その具体的な内容として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。 【書き直した文字】  【最初に書いた文字】  正答率： 福岡市…40.0% 全 国…39.4% 無回答率： 福岡市… 1.0% 全 国… 0.9% 【正答】 1 アの部分は、筆順の変化に気を付けて書くことができる。 (正答以外の解答状況) ア 2と解答しているもの…10.4% イ 3と解答しているもの…40.9% ウ 4と解答しているもの…7.7% ◆ア、イ、ウについては、行書の特徴についての理解に課題がある。行書の特徴とは、点や画の形が丸みを帯びる場合があること、点や画の方向及び止め・はね・払いの形が変わる場合があること、点や画が連続したり省略されたりする場合があること、筆順が変わる場合があることなどである。 ◆「我が国の言語文化に関する事項」の「書写」では、正しく整えて速く書くなど、文字の伝達性を重視した指導が求められるとともに、<u>自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか</u>といった視点で授業を構成することも大切である。<u>対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか</u>、<u>学びの深まりをつくりだすために</u>、生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み合わせるかなどを考えた授業構成が求められる。	

(7) 中学校数学の調査結果について

①領域及び観点ごとの調査結果

全国平均と比較して、		上回っている		下回っている			
分類	区分					平均正答率(%)	
						福岡市	全国（公立）
全体						51	51.4
学習指導要領の領域	A 数と式					57.6	57.4
	B 図形					43.3	43.6
	C 関数					43.2	43.6
	D データの活用					56.0	57.1
評価の観点	知識・技能					59.3	59.9
	思考・判断・表現					36.3	36.2
	主体的に学習に取り組む態度						

◆領域では、「図形」「関数」「データの活用」において、全国平均を下回った。

◆評価の観点では、「知識・技能」において、全国平均を下回った。

②平均正答率が高かった問題

(%)

問題番号	問題の概要	福岡市	全国	差
5	多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解している	82.0	83.3	-1.3
6 (1)	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	74.8	73.8	+1.0

◆問題番号5は、「確立を用いて不確定な事象を捉え考察する場面において、事象に即して解釈したことを数学的に表現することができるか、多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解しているかどうかをみる」ことが出題の趣旨であり、多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解することはできている。

◆問題番号6(1)は、「問題場面における考察の対象を明確に捉えることができるかどうかをみる」ことが出題の趣旨であり、同じ2つの偶数の和が4の倍数になることの説明を振り返り、具体的な数を用いて確かめることについてはできている。

③課題がみられた問題とその分析

問題番号	問題の概要
4	変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ

4

下のアからエまでの表は、 y が x の一次関数である関係を表しています。この中から、変化の割合が2であるものを1つ選びなさい。

ア

x	...	-6	-4	-2	0	2	4	6	...
y	...	-11	-7	-3	1	5	9	13	...

イ

x	...	-6	-4	-2	0	2	4	6	...
y	...	-5	-3	-1	1	3	5	7	...

ウ

x	...	-6	-4	-2	0	2	4	6	...
y	...	-2	-1	0	1	2	3	4	...

エ

x	...	-6	-4	-2	0	2	4	6	...
y	...	-7	-4	-1	2	5	8	11	...

正答率：福岡市...36.3%
全 国...37.9%
無回答率：福岡市...0.4%
全 国...0.4%

【正答】ア

(正答以外の解答状況)

イと解答しているもの...33.2%

ウと解答しているもの...17.7%

エと解答しているもの...12.3%

◆イについては、変化の割合を、表の隣り合う二つの y の値の差ととらえたと考えられる。ウについては、変化の割合を、 $\frac{x \text{の増加量}}{y \text{の増加量}}$ と捉えた、エについては、変化の割合を、 $x = 0$ のときの y の値と捉えたと考えられる。いずれも、一次関数についての理解が十分ではないといえる。

◆数学において、資質・能力を育成していくためには、学習過程の果たす役割が極めて重要であり、数学的に問題を発見・解決する過程を学習過程に反映することが重要である。生徒が目的意識をもって数学的に問題発見・解決する過程を遂行することに配慮した授業を行うことが求められる。

問題番号	問題の概要
9(2)	$\angle ABE$と$\angle CBF$の和が30°になる理由を示し、$\angle EBF$の大きさがいつでも60°になることの説明を完成する
(2) 琴音さんは、次の図2や図3のように、21ページの図1の長方形ABCDの辺の長さをいろいろに変えた図をかきました。このときも、$\triangle ABE \equiv \triangle CFB$が成り立つので、$EB = BF$がいえます。琴音さんは、$EB = BF$以外にも、辺や角についていえることがないか調べました。 図2 図3 調べたことから、琴音さんは、長方形ABCDの辺の長さを変えても、$\angle EBF$の大きさがいつでも60°になると予想し、次のように考えました。 琴音さんの考え ① $\angle EBF$について、 $\angle ABC = 90^\circ$より、 $\angle ABE + \angle CBF = 30^\circ$がいえれば、 $\angle EBF = 90^\circ - 30^\circ$となり、 $\angle EBF$が60°になることがいえる。 ② $\angle ABE + \angle CBF = 30^\circ$になることは、$\triangle ABE \equiv \triangle CFB$からわかる等しい角と、 $\angle EAB = 150^\circ$を用いて示すことができる。 (正答の条件) (a) $\angle AEB = \angle CBF$ (b) $\angle ABE + \angle AEB = 30^\circ$ (c) $\angle ABE + \angle CBF = 30^\circ$ 説明 正答率： 福岡市…11.9% 全 国…12.5% 無回答率： 福岡市…35.9% 全 国…38.5% $\angle ABE + \angle CBF = 30^\circ$になることが示せたので、 $\angle EBF = 90^\circ - (\angle ABE + \angle CBF)$より、 $\angle EBF = 90^\circ - 30^\circ = 60^\circ$になる。 【正答例】 $\triangle ABE \equiv \triangle CFB$より、合同な図形の対応する角は等しいから、$\angle AEB = \angle CBF$…① $\triangle ABE$において、三角形の内角の和は180°で、$\angle EAB = 150^\circ$であるから、 $150^\circ + \angle ABE + \angle AEB = 180^\circ$ $\angle ABE + \angle AEB = 30^\circ$…② ①、②より$\angle ABE + \angle CBF = 30^\circ$ したがって、$\angle ABE$と$\angle CBF$の和は30°になる。	
(正答以外の解答状況) ア 根拠として$\angle EBF = 60^\circ$を用いているもの…4.5% イ (a) (b)のどちらかについての記述がないもの…6.6% ウ (c)について記述しているもの…10.3% エ 上記以外の解答…35.9% ◆アについては、事柄が成り立つ理由について筋道を立てて考えることができていない。 ◆イについては、$\triangle ABE \equiv \triangle CFB$より、$\angle AEB = \angle CBF$や$150^\circ + \angle ABE + \angle AEB = 180^\circ$より$\angle ABE + \angle AEB = 30^\circ$を記述できているが、それを根拠として説明を続けることができていない。 ◆ウエについては、証明の根拠として用いられる三角形の合同条件及び、三角形の内角の和に関することを見いだすことができなかったと考えられる。 ◆図形の性質を考察する場面では、成り立つと予想した事柄について、論理的に考察し、それを数学的に表現することが大切である。正答率の低さや、正答以外の解答状況及び無回答率から、「筋道を立てて考えること」「事象に即して解釈したことを数学的に表現すること」「事柄が成り立つ理由を数学的に説明すること」ができるように指導を充実させることが求められる。	

(8) 中学校理科の調査結果について

①領域及び観点ごとの調査結果

全国平均と比較して、		上回っている		下回っている			
分類	区分					平均正答率(%)	
						福岡市	全国（公立）
全体						50	49.3
学習指導要領の領域	「エネルギー」を柱とする領域				41.7	41.9	
	「粒子」を柱とする領域				51.7	50.9	
	「生命」を柱とする領域				58.2	57.9	
	「地球」を柱とする領域				44.6	44.3	
評価の観点	知識・技能				46.0	46.1	
	思考・判断・表現				51.3	51.0	
	主体的に学習に取り組む態度						

◆領域では、「粒子」「生命」「地球」を柱とする領域において、全国平均を上回った。

◆評価の観点では、「思考・判断・表現」において、全国平均を上回った。

②平均正答率が高かった問題

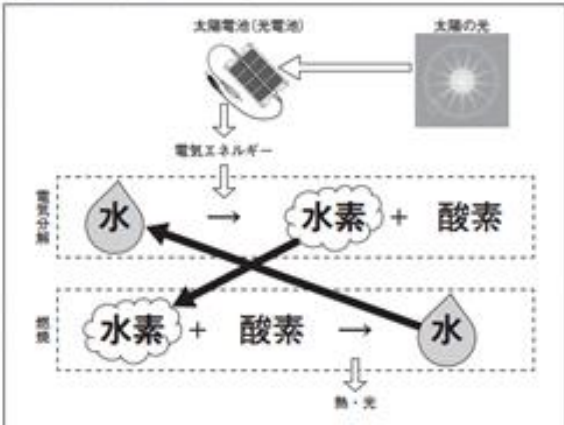
(%)

問題番号	問題の概要	福岡市	全国	差
3 (1)	化学変化に関する知識及び技能を活用して、水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に化学反応式で表すことができる	81.2	80.1	+1.1
1 (2)	モデルを使った実験において、変える条件と変えない条件を制御した実験を計画できる	79.5	78.5	+1.0

◆問題番号3(1)は、「化学変化に関する知識及び技能を活用して、水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に化学反応式で表すことができるかどうかをみる」ことが出題の趣旨であり、化学変化は原子や分子のモデルで説明できることについてはできている。

◆問題番号1(2)は、「モデルを使った実験において、変える条件と変えない条件を制御した実験を計画できることができるかどうかをみる」ことが出題の趣旨であり、条件を制御した実験を計画することについてはできている。

③課題がみられた問題とその分析

問題番号	問題の概要
3 (3)	水素を燃料として使うしくみの例の全体を働かせるおおもとを指摘する。
水素を燃料として使うしくみについて考える場面  ここでは、太陽電池などでつくった電気エネルギーを使って、水を分解しています。発生させた水素は、空気の燃料にも使われました。 このようにして発生させた水素を燃料として使うしくみの例を、下の図に表しました。 図 水素を燃料として使うしくみの例  (2) X に当てはまる適切なものを、下のアからウまでの中から1つ選びなさい。 ア 小さくなる イ 変化しない ウ 大きくなる (3) Y に当てはまる最も適切な言葉を「水素を燃料として使うしくみの例」の図の中から1つ選び、書きなさい。 【正答】太陽の光（太陽も可） 正答率： 福岡市…27.5% 全 国…24.8% 無回答率： 福岡市…3.4% 全 国…4.3% (正答以外の解答状況) ア 電気エネルギー又は太陽電池と解答しているもの…21.4% イ 電気分解又は燃焼に関する物質と解答しているもの…40.6% ウ 光・熱と解答しているもの…1.6% ◆ア、イ、ウについては、水素を取り出すために必要な電気エネルギーを得るためのおおもととして、太陽の光以外のものを指摘している。このことから、化学変化に関する知識と「エネルギー」を柱とする領域の知識を関連付け、分析して解釈することに課題があると考えられる。 ◆この問題は、「水素の利用について科学的に探究する学習場面において、化学変化に関する知識及び技能を活用できるかどうか、また、別の領域の知識及び技能とを関連付けて分析・解釈することができるかをみる」ことが出題の趣旨である。理科では、身に付けた知識及び技能を分野や領域を横断して関連付け、身近な事象を多面的、総合的に捉えることが大切である。授業では、分野や領域を横断して関連付け、科学的に探究する指導を充実させることが求められる。	

問題番号	問題の概要																					
5 (1)	おもりに働く重力とつり合う力の矢印を選択し、その力について説明する																					
5	ばねを押すとき、加える力の大きさとばねが縮む長さの関係について、理科の授業で科学的に探究しました。 (1)から(3)までの各問いに答えなさい。 押して使うばねを探究する場面 ばねの伸びは、加える力の大きさと比例の関係がありました。 ばねは、生活の中で押して使うことが多いですね。 ばねを押すときも、比例の関係が成り立つのかな。 図1 透明なプラスチックの筒 おもり ばねが縮む長さ ばねの長さ ばね 床 図2 おもりにたらく重力 ア イ ウ エ カ おもりがばねを押す力 キ ばねがおもりを押す力 ク おもりが床を押す力 ケ 床がおもりを支える力 【課題】 ばねが縮む長さは、加える力の大きさに比例するか。 【実験の計画】 図1の装置をつくり、ばねに加える力の大きさを变化させたときのばねの長さを3回測定して平均をとり、ばねが縮む長さを計算してグラフに表す。 【実験の結果】 <table border="1"> <tr> <td>力の大きさ(N)</td> <td>0</td> <td>0.1</td> <td>0.2</td> <td>0.3</td> <td>0.4</td> <td>0.5</td> </tr> <tr> <td>ばねの長さ(cm)</td> <td>10.0</td> <td>8.0</td> <td>6.0</td> <td>4.0</td> <td>4.0</td> <td>4.0</td> </tr> <tr> <td>縮む長さ(cm)</td> <td>0</td> <td>2.0</td> <td>4.0</td> <td>6.0</td> <td>6.0</td> <td>6.0</td> </tr> </table> 【考察】 (1) 図2のように、ばねにのせたおもりが静止したとき、矢印で表したおもりにたらく重力とつり合う力を、下のアからエまでのの中から1つ選びなさい。 また、選んだ力の説明として適切なものを、下の力からケまでのの中から1つ選びなさい。	力の大きさ(N)	0	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	ばねの長さ(cm)	10.0	8.0	6.0	4.0	4.0	4.0	縮む長さ(cm)	0	2.0	4.0	6.0	6.0	6.0
力の大きさ(N)	0	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5																
ばねの長さ(cm)	10.0	8.0	6.0	4.0	4.0	4.0																
縮む長さ(cm)	0	2.0	4.0	6.0	6.0	6.0																
【正答】アとキ 正答率： 福岡市...19.3% 全 国...15.3% 無回答率： 福岡市...0.2% 全 国...0.2%																						
(正答以外の解答状況) ア 矢印はアと解答しているが、説明についてキ以外を解答しているもの...2.6% イ 矢印はア以外を解答し、説明についてはキを解答しているもの...59.1% ウ 矢印はア以外を解答し、説明についてもキ以外を解答しているもの...17.9% ◆アについては、おもりに働く重力とつりあう力を矢印で表したものを指摘できているが、つりあう力の説明は正しく指摘できていない。矢印で表した力の説明に課題があると考えられる。 ◆イについては、おもりに働く重力とつりあう力の説明は指摘できているが、つりあう力を矢印で表したものを正しく指摘できていない。59.1%と半数以上の生徒が、<u>作用点を力の矢印の始点として表すことに課題がある</u>と考えられる。 ◆力には、大きさ、向き、作用点という要素があり、力を矢印の大きさと向きを用いて表すことができることを理解させることに加え、これらの学習の中で、身近なところにある力の具体例などにも触れ、生徒の興味・関心を高めることも大切である。																						

3 経年変化からみた学力の状況について

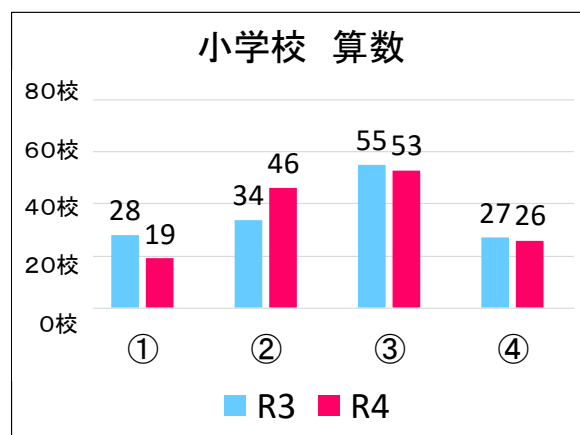
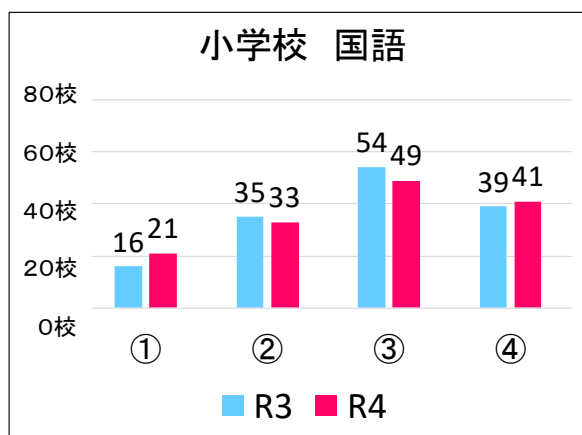
(1) 令和3年度調査と令和4年度調査の4段階の学校数の比較

「4段階」とは

全国と各学校を比較し、その結果を「上回っている」「やや上回っている」「同程度である」「努力を要する」の4段階で区分したもの

【小学校】

①上回っている、②やや上回っている、③同程度である、④努力を要する

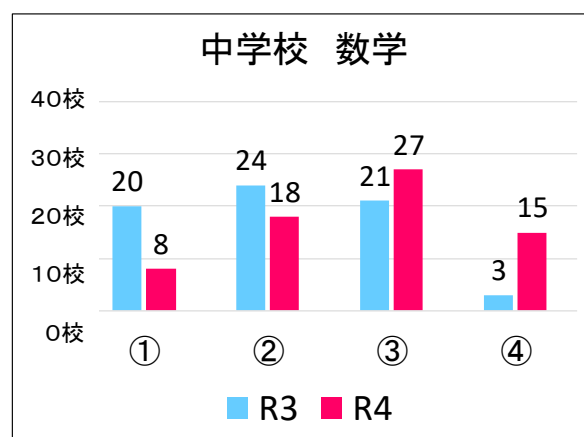
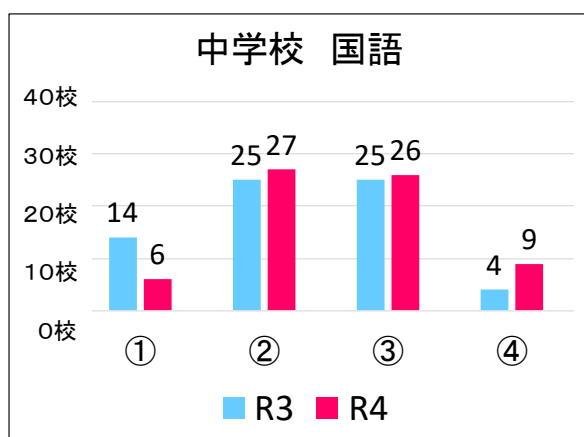


◆国語については、「①上回っている」「④努力を要する」の学校数が増加し、「②やや上回っている」「③同程度である」の学校数が減少している。

◆算数については、「②やや上回っている」の学校数が増加し、「①上回っている」「③同程度である」「④努力を要する」の学校数が減少している。

【中学校】

①上回っている、②やや上回っている、③同程度である、④努力を要する



◆国語については、「②やや上回っている」「③同程度である」「④努力を要する」の学校数が増加し、「①上回っている」の学校数が減少している。

◆数学については、「③同程度である」「④努力を要する」の学校数が増加し、「①上回っている」「②やや上回っている」の学校数が減少している。

(2) 同一児童生徒群（令和元年度小学校6年生、令和4年度中学校3年生）の結果比較

○学習指導要領の内容・領域ごとの平均正答率

正答率（％）			正答率（％）		
国語	R 1 小6福岡市	全国との差	R 4 中3福岡市	全国との差	
話すこと・聞くこと	70.9	-1.4	64.7	0.8	話すこと・聞くこと
書くこと	54.3	-0.2	48.7	2.2	書くこと
読むこと	81.9	0.2	68.6	0.7	読むこと
算数・数学	R 1 小6福岡市	全国との差	R 4 中3福岡市	全国との差	
数と計算	64.4	1.2	57.6	0.2	数と式
図形	77.9	1.2	43.3	-0.3	図形
量と測定	54.2	1.3	43.2	-0.4	関数
数量関係	69.7	1.4			

- ◆国語については、令和元年度小学校調査において「話すこと・聞くこと」「書くこと」の内容で、全国平均を下回ったものの、令和4年度中学校調査では、どちらも全国平均を上回った。
- ◆中でも、「書くこと」において、大きな向上が見られた。
- ◆算数・数学については、令和元年度小学校調査においてすべての領域で、全国平均を上回ったが、令和4年度中学校調査において「図形」「関数」領域において下回った。

4 児童質問紙及び学校質問紙調査の結果について

(1) 教科に関する児童質問紙及び学校質問紙調査の結果（肯定的回答率の比較）

①小学校国語

【児童質問紙】

(%)

番号	質問事項	福岡市	全国	差
49	国語の勉強は好きですか	55.8	59.2	-3.4
50	国語の勉強は大切だと思いますか	93.2	93.3	-0.1
51	国語の授業の内容はよく分かりますか	81.1	84.0	-2.9

【学校質問紙】

(%)

番号	質問事項	福岡市	全国	差
41	調査対象学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして書いたり、書き表し方を工夫したりする授業を行いましたか	88.9	92.7	-3.8
42	調査対象学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり自分の考えを広げたりする授業を行いましたか	91.0	95.6	-4.6

②小学校算数

【児童質問紙】

(%)

番号	質問事項	福岡市	全国	差
53	算数の勉強は好きですか	60.6	62.5	-1.9
54	算数の勉強は大切だと思いますか	94.6	94.2	+0.4
55	算数の授業の内容はよく分かりますか	79.7	81.2	-1.5

【学校質問紙】

(%)

番号	質問事項	福岡市	全国	差
46	調査対象学年の児童に対する算数の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	70.8	84.3	-13.5
47	調査対象学年の児童に対する算数の指導として、前年度までに、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を伴った理解をする活動を行いましたか	88.9	92.4	-3.5
48	調査対象学年の児童に対する算数の指導として、前年度までに、公式やきまり、計算の仕方等を指導するとき、児童がそのわけを理解できるように工夫していましたか	95.8	97.1	-1.3

③小学校理科

【児童質問紙】

(%)

番号	質問事項	福岡市	全国	差
61	理科の勉強は好きですか	80.2	79.7	+0.5
62	理科の勉強は大切だと思いますか	85.9	86.5	-0.6
63	理科の授業の内容はよく分かりますか	89.0	88.5	+0.5

【学校質問紙】

(%)

番号	質問事項	福岡市	全国	差
50	調査対象学年の児童に対する理科の指導として、前年度までに、自然の事物・現象から問題を見いだすことができる指導を行いましたか	92.3	93.9	-1.6
51	調査対象学年の児童に対する理科の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	90.3	94.2	-3.9
52	調査対象学年の児童に対する理科の指導として、前年度までに、観察や実験の結果を整理し考察する指導を行いましたか	96.5	97.1	-0.6

- ◆小学校国語、算数において、「勉強が好き」「よく分かる」については、全国平均を下回ったが、小学校理科においては、全国平均を上回った。
- ◆小学校算数において、「実生活における事象との関連を図った授業を行った」との回答率は、全国平均を大きく下回った。

④中学校国語

【生徒質問紙】

(%)

番号	質問事項	福岡市	全国	差
49	国語の勉強は好きですか	64.8	61.9	+2.9
50	国語の勉強は大切だと思いますか	94.8	93.2	+1.6
51	国語の授業の内容はよく分かりますか	79.4	81.2	-1.8

【学校質問紙】

(%)

番号	質問事項	福岡市	全国	差
41	調査対象学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり、表現を工夫して書いたりする授業を行いましたか	92.9	96.1	-3.2
42	調査対象学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて文章を読み、内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりする授業を行いましたか	91.4	95.8	-4.4

⑤中学校数学

【生徒質問紙】

(%)

番号	質問事項	福岡市	全国	差
53	数学の勉強は好きですか	59.2	58.1	+1.1
54	数学の勉強は大切だと思いますか	89.0	86.6	+2.4
55	数学の授業の内容はよく分かりますか	74.4	76.2	-1.8

【学校質問紙】

(%)

番号	質問事項	福岡市	全国	差
46	調査対象学年の生徒に対する数学の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	72.9	82.8	-9.9
47	調査対象学年の生徒に対する数学の指導として、前年度までに、観察や操作、実験等の活動を通して、数量や図形等の性質を見いだす活動を行いましたか	72.8	78.7	-5.9
48	調査対象学年の生徒に対する数学の指導として、前年度までに、公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫して行いましたか	100.0	97.0	+3.0

⑥中学校理科

【生徒質問紙】

(%)

番号	質問事項	福岡市	全国	差
61	理科の勉強は好きですか	67.6	66.4	+1.2
62	理科の勉強は大切だと思いますか	78.6	76.8	+1.8
63	理科の授業の内容はよく分かりますか	75.3	75.2	+0.1

【学校質問紙】

(%)

番号	質問事項	福岡市	全国	差
49	調査対象学年の生徒に対する理科の指導として、前年度までに、自然の事物・現象から問題を見いだすことができる指導を行いましたか	88.5	94.4	-5.9
50	調査対象学年の生徒に対する理科の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	95.7	96.8	-1.1
52	調査対象学年の生徒に対する理科の指導として、前年度までに、観察や実験の結果を分析し解釈する指導を行いましたか	82.9	94.6	-11.7

- ◆中学校国語、数学、理科において、「勉強は好き」「大切だと思う」については、全国平均を上回ったが、「よく分かる」については中学校国語、数学において、全国平均を下回った。
- ◆中学校理科において、「勉強は好き」「大切だと思う」「よく分かる」すべてについて、全国平均を上回った。
- ◆中学校理科において、「観察や実験の結果を分析し解釈する指導を行いましたか」との回答率は、全国平均を大きく下回った。

(2) 同一児童生徒群の児童生徒質問紙調査の結果比較

(%)

朝食を毎日食べていますか			
	R 1 小学校	R 4 中学校	差
肯定的回答率	93.4	90.6	
全国との差	-1.9	-1.3	0.6

毎日、同じくらいの時刻に起きていますか			
	R 1 小学校	R 4 中学校	差
肯定的回答率	91.1	92.9	
全国との差	-0.5	0.7	1.2

家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか			
	R 1 小学校	R 4 中学校	差
肯定的回答率	71.5	55.1	
全国との差	0	-3.4	-3.4

自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか (R1…ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがありますか)			
	R 1 小学校	R 4 中学校	差
肯定的回答率	95.1	85.5	
全国との差	-0.1	-1.1	-1

難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか			
	R 1 小学校	R 4 中学校	差
肯定的回答率	76.7	65.6	
全国との差	-2.3	-1.5	0.8

国語の授業の内容はよく分かりますか			
	R 1 小学校	R 4 中学校	差
肯定的回答率	81.0	79.4	
全国との差	-3.9	-1.8	2.1

算数・数学の授業の内容はよく分かりますか			
	R 1 小学校	R 4 中学校	差
肯定的回答率	82.6	74.4	
全国との差	-0.9	-1.8	-0.9

- ◆ 基本的な生活習慣については、朝食を毎日食べる習慣は、令和元年度小学校6年生時点から、令和4年度中学校3年生では、下回っている。起床時刻の習慣については、令和元年度小学校6年生時点から向上している。
- ◆ 「家で、自分で計画を立てて勉強すること」については、令和元年度小学校6年生時点から、令和4年度中学校3年生では、下回っている。
- ◆ 「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか」については、令和元年度小学校6年生時点から、令和4年度中学校3年生で上回っている。
- ◆ 「国語の理解度」「算数・数学の理解度」については、令和元年度小学校6年生時点から、令和4年度中学3年生では、下回っている。

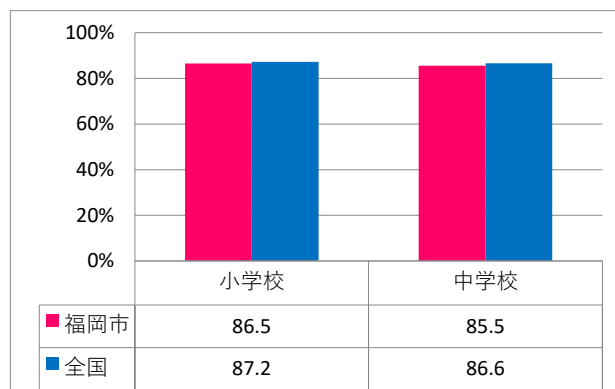
(3) 児童生徒質問紙における学習意欲や学習習慣等の結果と平均正答率の傾向について

①学習意欲

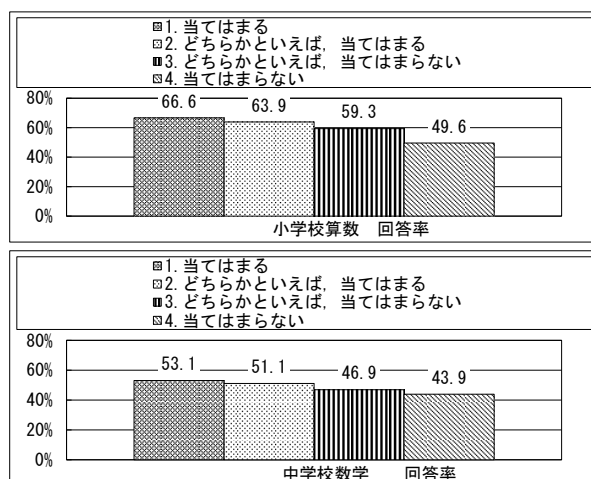
・児童生徒質問紙（小中ともに 10）

自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか。

【児童生徒質問紙肯定的回答率】



【平均正答率】



◆小・中学校ともに、自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている児童生徒が、8割を超えている。

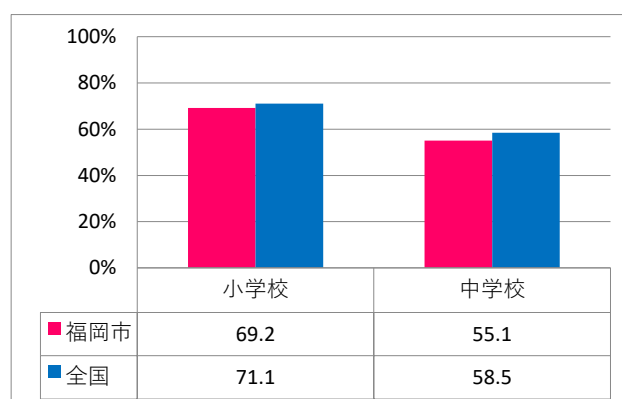
◆自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている児童生徒の算数・数学における平均正答率は、やり遂げていないと回答した児童生徒と比べて高い。

②計画的な勉強

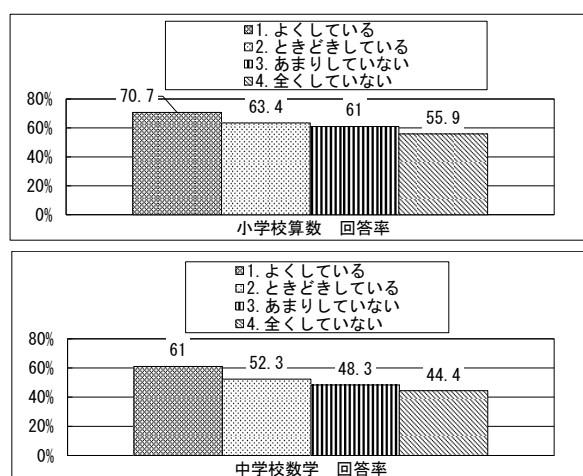
・児童生徒質問紙（小中ともに 20）

家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）

【児童生徒質問紙肯定的回答率】



【平均正答率】



◆家で自分で計画を立てて勉強をしている児童は7割程度、生徒は5割超である。

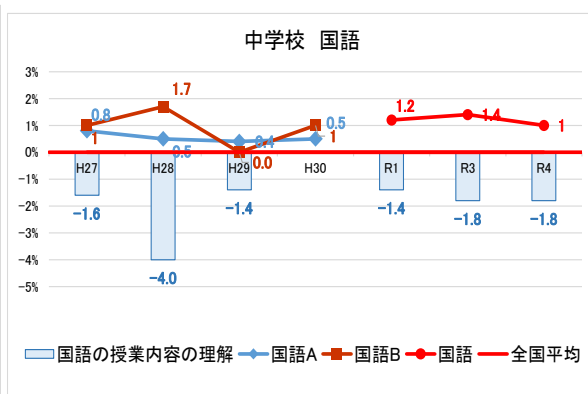
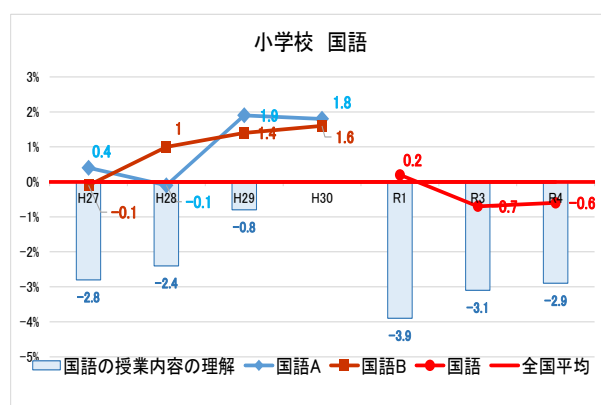
◆家で自分で計画を立てて勉強をしている児童生徒の算数・数学における平均正答率は、していないと回答した児童生徒と比べて高い。

(4) 授業内容の理解に関する児童生徒質問紙の結果と平均正答率の比較

福岡市ではかねてより、児童生徒の授業内容の理解について、第2次福岡市教育振興基本計画における評価指標とするなど重視している。ここでは、平成27年度から令和4年度までの、児童生徒質問紙における国語及び算数・数学の授業内容の理解度に関する質問項目（肯定的回答率の全国との差）と、各教科平均正答率の全国平均正答率との差の相関関係について整理を試みた。

※平成30年度については、児童生徒質問紙において国語の授業内容の理解に関する質問項目なし

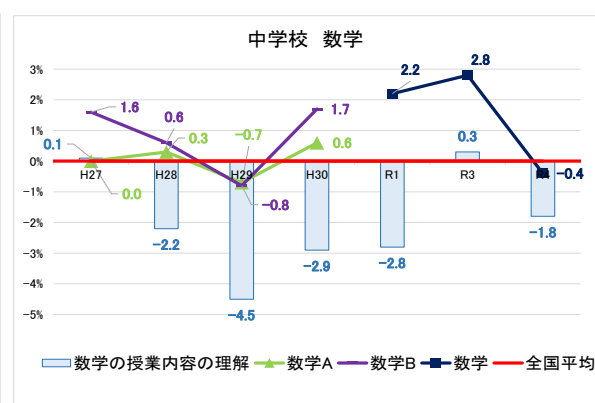
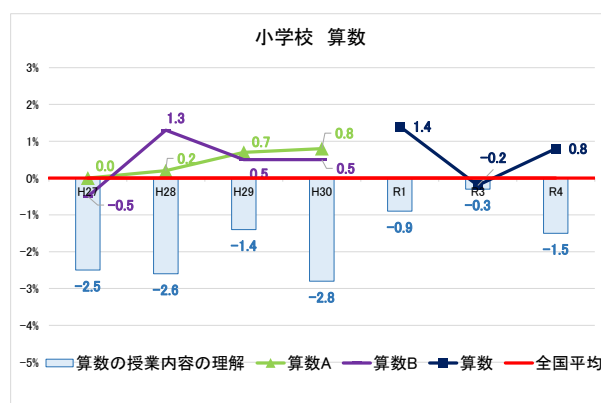
① 国語の状況



◆小学校国語では、授業内容の理解の値が全国よりも大きく下回っている場合において、平均正答率の全国との差の値についても低くなる傾向がみられる。特に平成27年度、28年度、令和3年度、4年度においてその傾向が強く表れている。

◆中学校国語では、小学校国語のような傾向はみられない。

② 算数・数学の状況



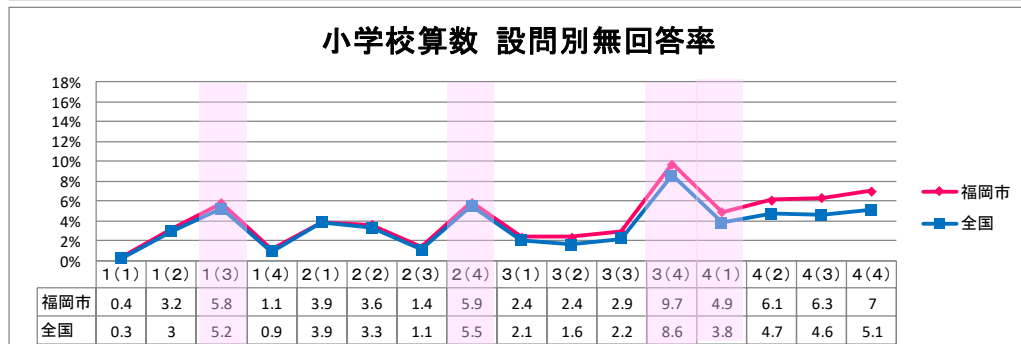
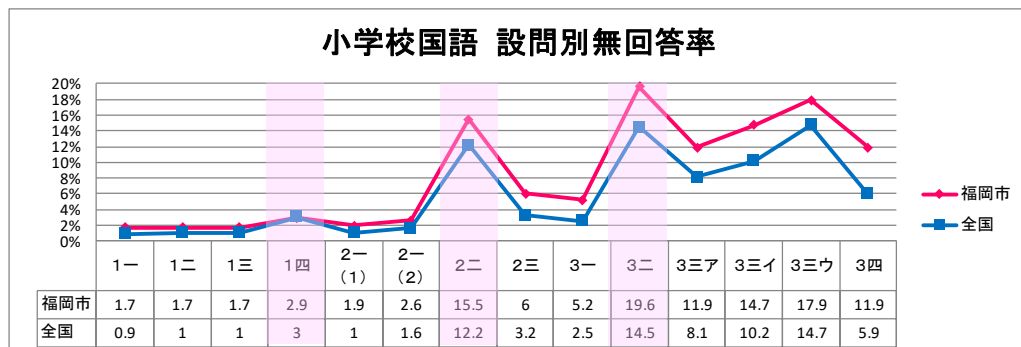
◆小学校算数では、授業内容の理解の値と平均正答率との相関はみられない。

◆中学校数学では、授業内容の理解の値が低くなる場合において、平均正答率の差の値についても低下する傾向がみられる。特に、平成29年度と令和4年度に授業内容の理解と平均正答率との関係が強く表れている。中学校数学においては、生徒の授業内容の理解と平均正答率との関係に注視する必要がある。

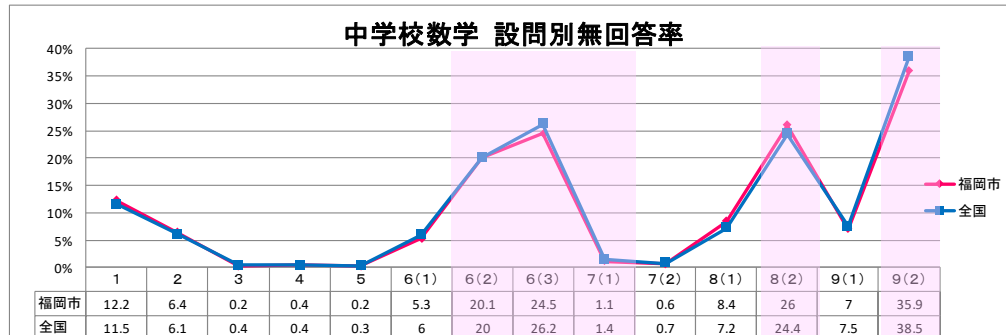
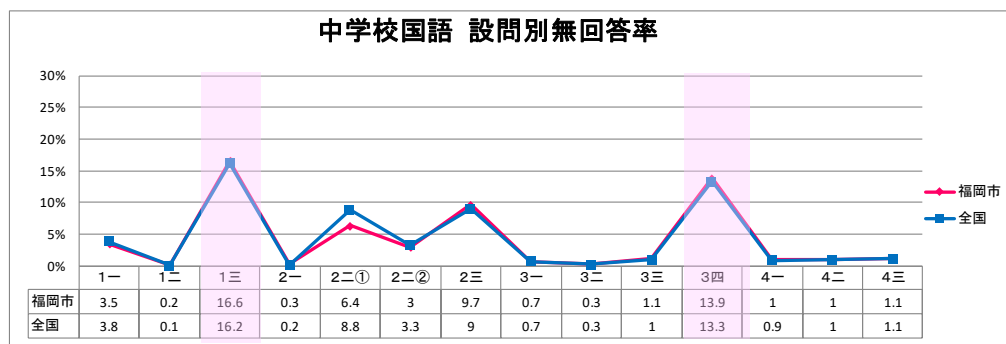
5 問題へ無回答率の傾向について

(1) 令和4年度の設問別無回答率の状況

【小学校】

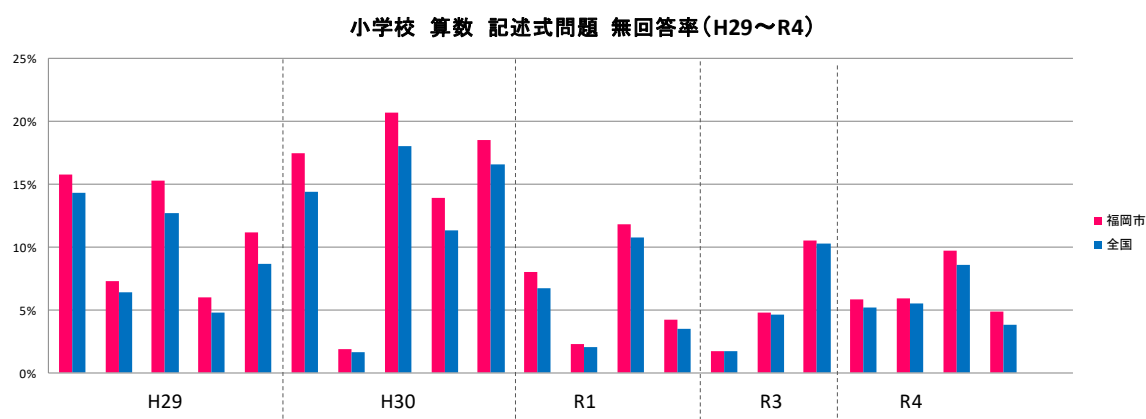
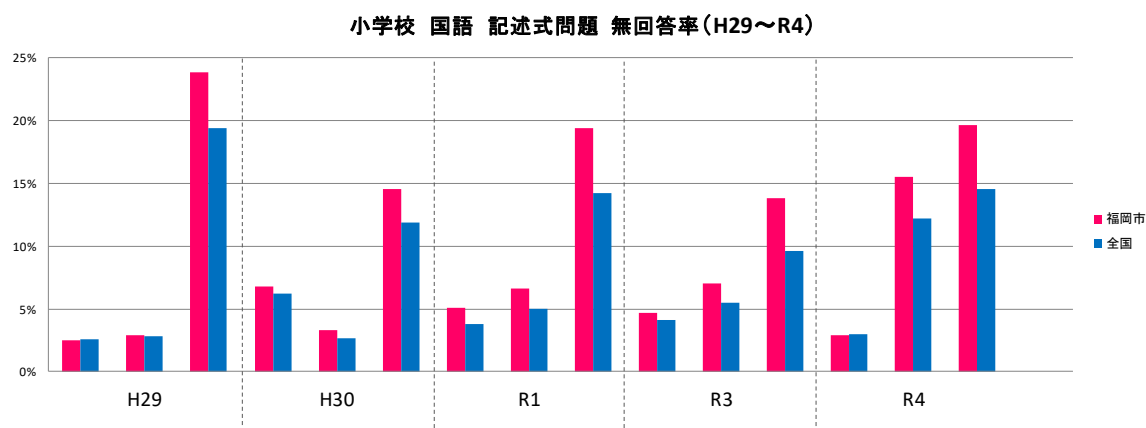


【中学校】

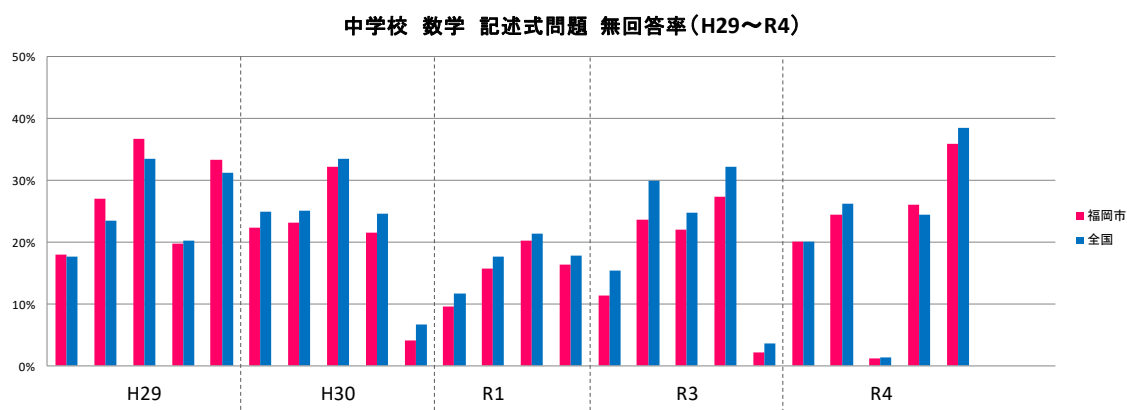
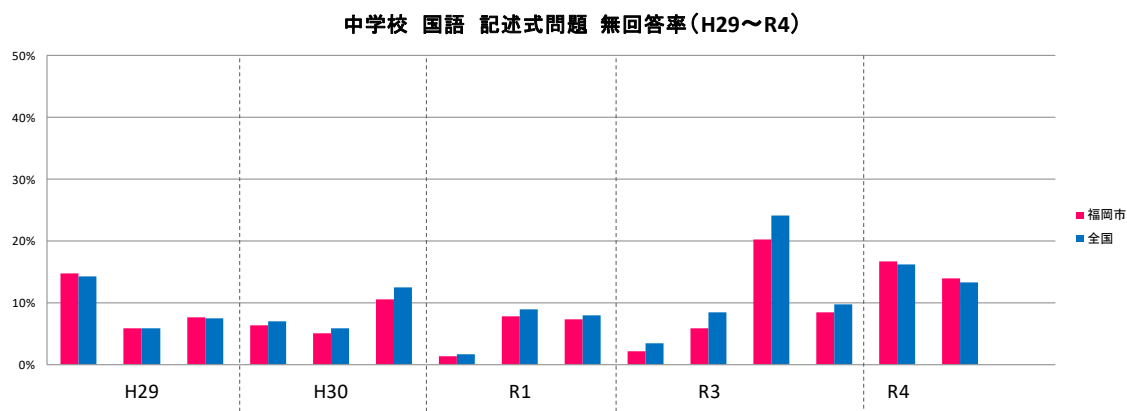


- ◆小学校では、無回答率が全国より上回る問題数が多い傾向がみられる。特に、国語において、その傾向が顕著にみられる。ピンク網掛け部分が記述式の問題であり、国語において、全国との差が開く傾向がみられる。
- ◆中学校では、国語、数学ともに、無回答率が全国と同程度である。

(2) 平成 29 年度から令和 4 年度における記述式問題での無回答率の状況
【小学校】



【中学校】



- ◆小学校国語では、無回答率が全国より高い傾向が見られる。特に、どの年度においても最後の記述式問題において、無回答率が全国を大きく上回っている。
- ◆小学校算数では、国語と同様に記述式問題の無回答率が、全国より上回る傾向にあるが、令和元年度及～令和4年度については、全国との差の開きが小さくなっている。
- ◆中学校国語では、無回答率が全国より低い傾向が見られる。
- ◆中学校数学では、平成30年度～令和3年度まで無回答率が、全国より低かったが、令和4年度は高い問題も見られる。

6 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組みの状況

(1) 主体的・対話的で深い学びに関する質問項目①

(学校質問紙調査と児童生徒質問紙調査の比較)

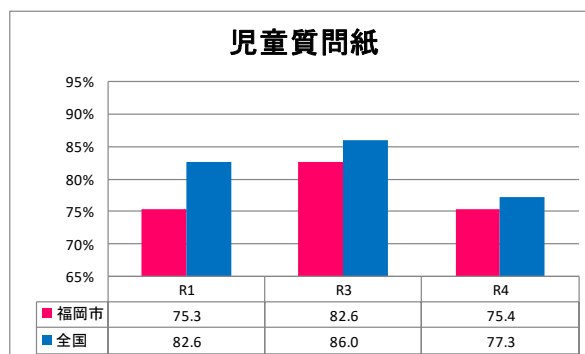
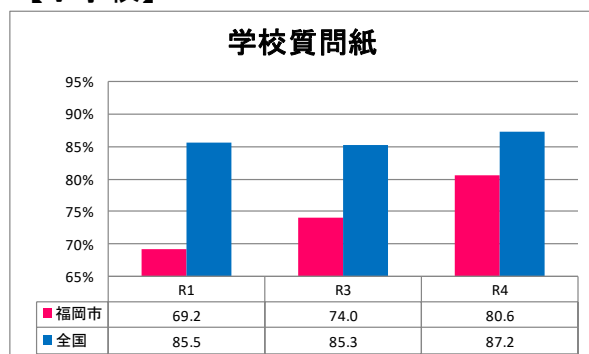
・学校質問紙（小中ともに 23）

調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

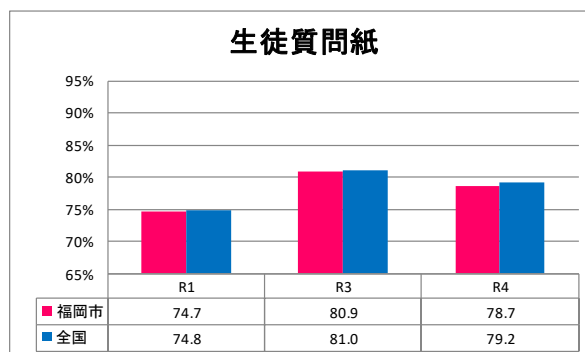
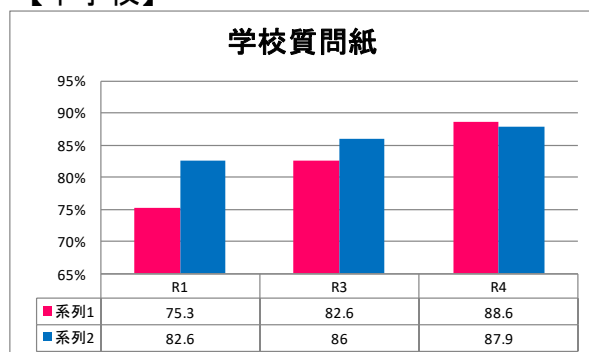
・児童生徒質問紙（小中ともに 39）

5年生まで（1、2年生のとき）に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

【小学校】



【中学校】



- ◆小中ともに学校質問紙 23 の「調査対象学年の児童（生徒）は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか」については、令和 3 年度まで、全国を下回っていたが、令和 4 年度は中学校において上回っている。小学校においては、令和元年度及び令和 3 年度と全国を大きく下回っていたが、令和 4 年度は、全国との差は縮小している。
- ◆児童生徒質問紙 39 の「5 年生まで（1、2 年生のとき）に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」については、小学校は全国を下回り、中学校においてもわずかに全国を下回っている。小学校は、令和 3 年度までと比較して、全国との差が縮小している。
- ◆学校質問紙において向上傾向がみられることから、「自分で考え、自分から取り組む」ことについて、各学校における取組みが改善されているものと考えられるが、児童生徒の意識については、全国的にも低下している点は注視する必要がある。

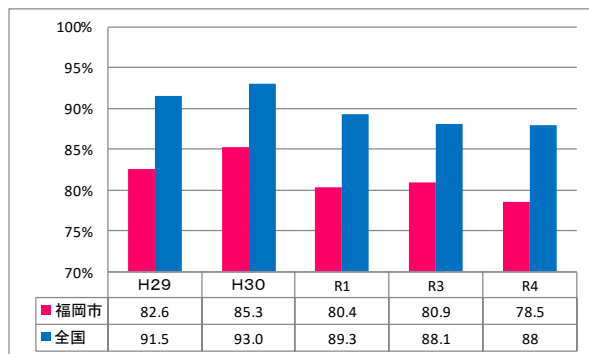
(2) 主体的・対話的で深い学びに関する質問項目②

①指導方法工夫改善について（学校質問紙調査 肯定的回答率の結果）

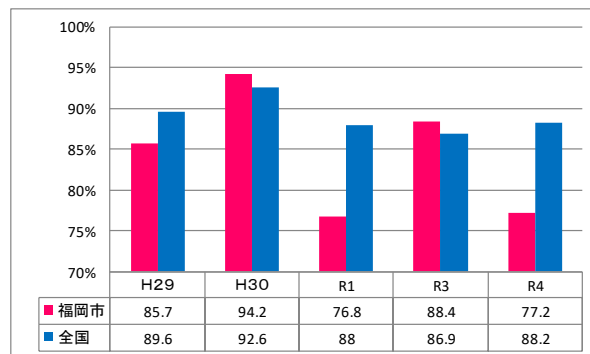
・学校質問紙（小中ともに 30）

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか

【小学校】



【中学校】



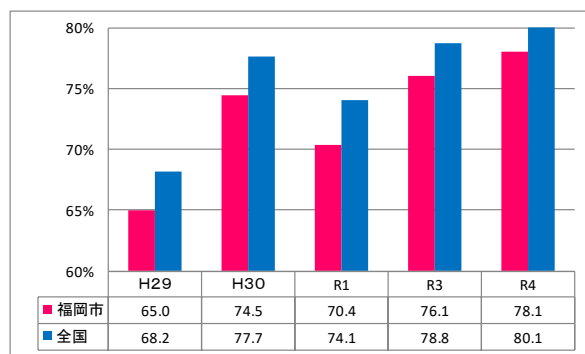
- ◆学校質問紙 30 は、各学校における指導方法の工夫改善に係る質問項目である。
- ◆小学校においては、令和 3 年度から低下しており、全国も下回っている。
- ◆中学校においては、令和元年度大幅に全国を下回っていたものの、令和 3 年度は全国を上回る値まで向上したが、令和 4 年度は大幅に下回っている。

②話し合う活動について（児童生徒質問紙 肯定的回答率の結果）

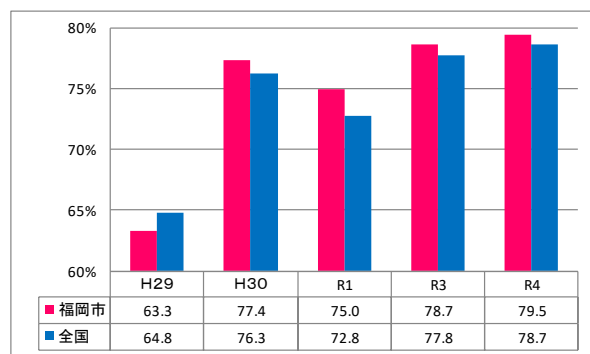
・児童生徒質問紙（小中ともに 43）

学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか

【小学校】



【中学校】



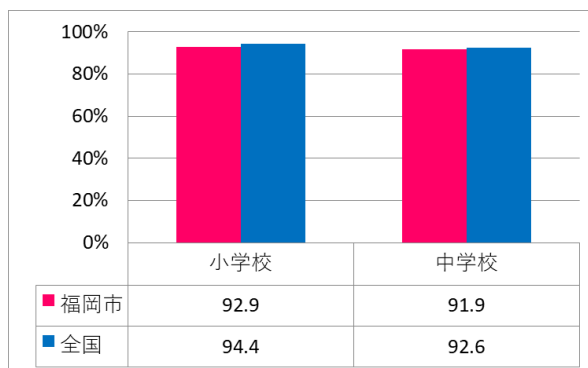
- ◆児童質問紙 43 は、対話的な学びに関する質問項目である。
- ◆小学校においては、全国を下回っているものの、令和 3 年度から向上している。
- ◆中学校においては、平成 30 年度から全国を上回る値で推移しているとともに、令和 3 年度から向上している。

7 ICTを活用した学習状況について

・児童生徒質問紙（小中ともに 36） 肯定的回答率

学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。

【児童生徒質問紙】

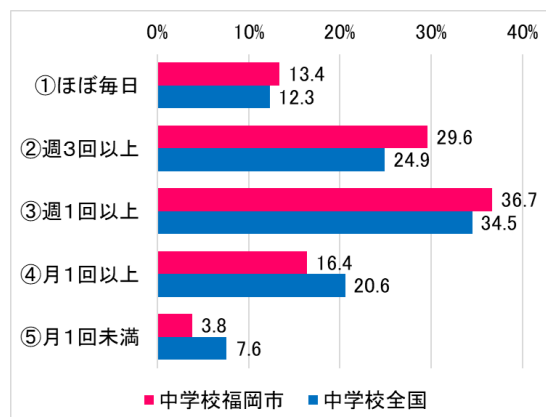
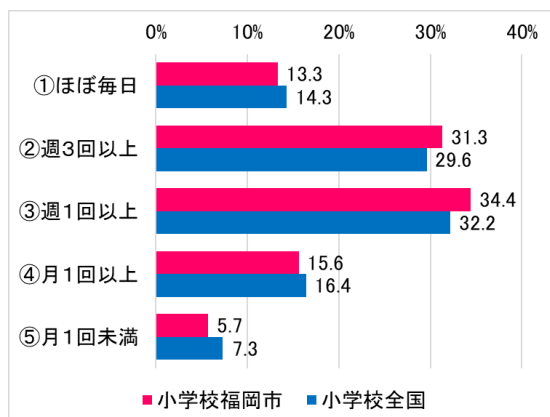


◆小・中学校ともに、ICT機器を使うことが勉強の役に立つと感じている児童生徒が、9割を超えている。

・児童生徒質問紙（小中ともに 33）

学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか。

【児童生徒質問紙】



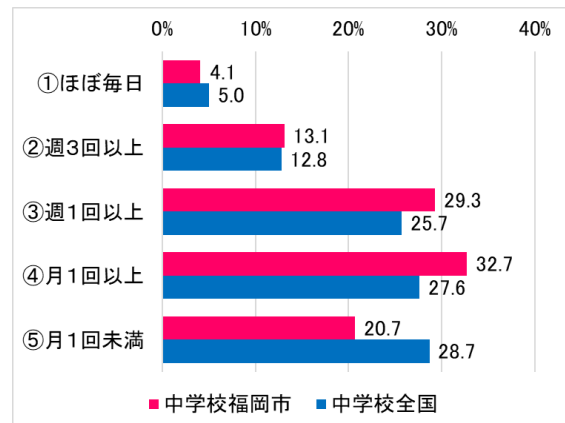
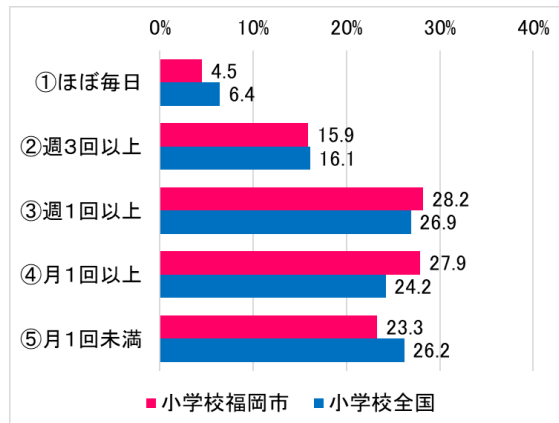
◆PC・タブレットなどのICT機器の活用について、授業中に自分で調べる場面で週1回以上使っていると回答した児童生徒は、ともに約8割程度。

◆中学校において、授業中に自分で調べる場面で、ICT機器を週1回以上使っている生徒は、全国より上回っている。

・児童生徒質問紙（小中ともに 34）

学校で、学級の友達と意見を交換する場面で、ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を、どの程度使っていますか。

【児童生徒質問紙】



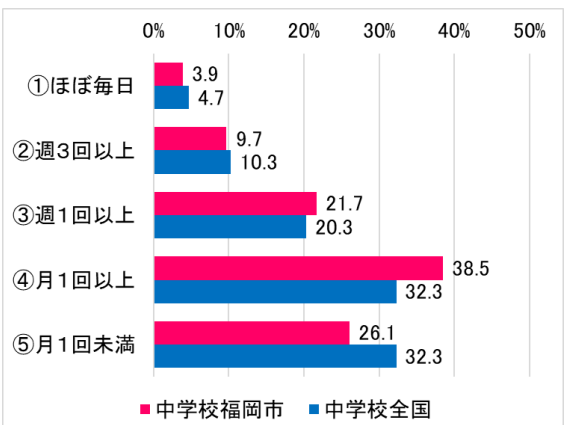
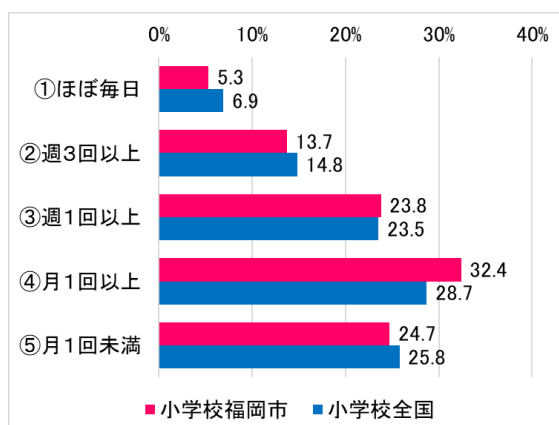
◆ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器の活用について、学級の友達と意見を交換する場面で週１回以上使っていると回答した児童生徒は、ともに約５割弱程度。

◆小学校、中学校ともに週１回以上～月１回以上の間の回答が多くなっている。

・児童質問紙（小中ともに 35）

学校で、自分の考えをまとめ発表する場面で、ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を、どの程度使っていますか。

【児童生徒質問紙】



◆ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器の活用について、自分の考えをまとめ発表する場面で週１回以上使っていると回答した児童は約４割程度、生徒は約３．５割弱程度。

◆小学校、中学校ともに月１回未満～月１回以上の間の回答が多くなっている。

8 今後の課題

- ◆友達と話し合ったことを基に深まった自分の考えを、相手に伝えるために表現することができていない。
- ◆学習したことを、生活場面でいかすことが苦手である。
- ◆児童生徒質問紙において、授業内容が「よく分からない」と回答している児童生徒は、学力が低い傾向にある。
- ◆児童生徒質問紙において「課題解決に自ら取り組んでいると思う」と回答した子どもの数は減少しているが、学校質問紙において「児童生徒は、課題解決に自ら取り組むことができていると思う」と回答した教師の数は増加しているなど、子どもと教師の意識に差がある。

9 取組みの方向性

(1) 各学校での取組み

- ◆子どもが「分かった」「できた」ことを実感する授業や、自分の考えと友達の考えを比較する過程を重視し、自らの学びの成果を自覚できる授業など、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に取り組む。
- ◆「調べる」「意見交換する」「自分の考えを主張する」場面でのICTの効果的な活用を重視するとともに、「板書」「発問」などを工夫して子どもの考えをつくる授業もあわせて大切にする。
- ◆学校生活の中で、様々な問題に出会ったときに、子ども自らが解決方法を考えることができるよう、教師が意図的に働きかける。
- ◆ドリル的な補充学習にとどまらず、児童生徒の学習状況に応じた発展的・探究的な家庭学習の在り方を探り、従来の家庭学習にとどまらない「個別最適な学び」につながる家庭学習へチャレンジする。

(2) 教育委員会としての取組み

- ◆教師の自己評価を取り入れた「授業改善推進プラン」を基に、指導主事による各学校への指導・助言を行い、学校との協議を充実させるとともに、継続的なサポートを行う。
- ◆教師一人一人の授業力向上のため、「授業改善推進モデル校」の好事例を全市へ発信する。